文部科学省
マイスター・ハイスクール
（次世代地域産業人材育成刷新事業）

令和7年度
「マイスター・ハイスクールネットワーク構築にかかる支援」
報告書

2026年3月
株式会社ソフィア

Copyright © Sofia, Inc. All rights reserved

本報告書の要旨

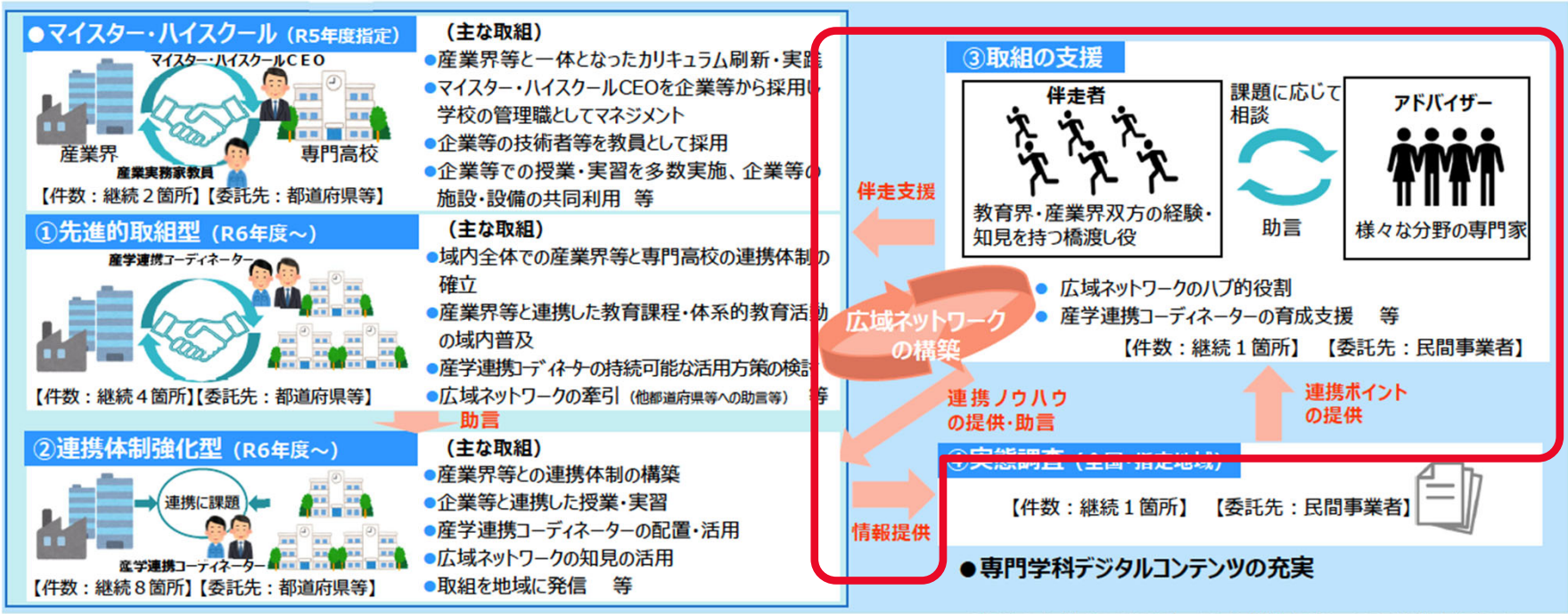
令和3年度～令和7年度の共通枠組みと、普及促進に向けたネットワーク構築支援の位置づけ

0-1 目次

章	章タイトル	章の内容
序章	本報告書の要旨	報告書の対象範囲（文部科学省の図の赤枠）及び言葉の定義（「伴走支援」「実施機関」など）を明確化し、令和7年度の方針（共通課題への対応）及び整理軸（4テーマ）を示す。
1章	事業の目的・背景	令和3年度～令和5年度の「PDCAサイクル構築のための調査研究」で得られた成果及び課題を踏まえ、マイスター・ハイスクールの目指す姿及び推進の枠組みを整理する。その上で、令和6年度～令和7年度の「ネットワーク構築支援」の目的及び背景、令和7年度の継続課題（3分類）及び重点的に扱った取り組み・KPI（観点）を示す。
2章	実施体制・運営	令和7年度のネットワーク構築支援について、役割の整理（2-1）に続き、実施体制（2-2）、区分別の実施事項（2-3）、会議体の全体像（2-4）を示し、最後に伴走者及びアドバイザーの一覧（2-5、2-6）を整理する。
3章	実施機関と伴走支援の整理	実施機関を区分別に整理し、それぞれの事業概要及び状況を示す。あわせて、実施機関への伴走支援について、重視したスタンス及び支援のポイントを整理し、伴走支援全体の考え方を総括する。
4章	ネットワーク構築支援の成果	勉強会（計8回）を中心に、情報交換会（計3回）、各地域のイベント／視察、ポータルサイトによる情報発信を通じた、実施機関間の情報共有及び相互学習の成果を整理する。
5章	成果発表会・広報活動の成果	成果発表会の実施概要及び当日の流れを整理し、事業関係者／一般参加者のアンケート結果（母集団整理を含む）から、普及の到達点及び示唆を整理する。
6章	共通課題の整理	ネットワーク構築支援（令和6年度～令和7年度）の実践を通じて提起された共通課題を、エコシステムのフェーズに沿う4テーマとして整理し、分科会での議論内容を踏まえて要点を整理する。
終章	あとがき	関連事業の実施期間（令和3年度～令和7年度）及び高等学校教育改革の推進としての位置づけ（N-E.X.T.ハイスクール構想への接続）を整理し、報告書の結びとする。

0-2 本報告書の要旨

本報告書は、文部科学省が令和3年度から令和7年度にわたり実施したマイスター・ハイスクール（次世代地域産業人材育成刷新事業）関連事業の枠組みにおいて、令和6年度から令和7年度に実施された事業のうち、株式会社ソフィアが受託した「マイスター・ハイスクールネットワーク構築に係る支援」（赤枠部分）の令和７年度の取り組みと成果について取りまとめます。



（初等中等教育局参事官（高等学校担当）付産業教育振興室）

本報告書における言葉の定義

※　「**マイスター・ハイスクール関連事業**」とは、令和3年度～令和7年度のマイスター・ハイスクール（次世代地域産業人材育成刷新事業）に関する事業を指します。

※　「**伴走支援**」**とは、実施機関が行う取り組みを対象に、助言、伴走者の支援、実施機関間ネットワークのハブ機能、産学連携コーディネーターの育成支援などを行うことを指します。**

※　「**実施機関**」とは、実施校および教育委員会などの管理機関を中心に、産業界などの関係者を含む事業推進主体を指します。

※　「専門高校の産学連携に関する調査研究事業」を対象に含みません。

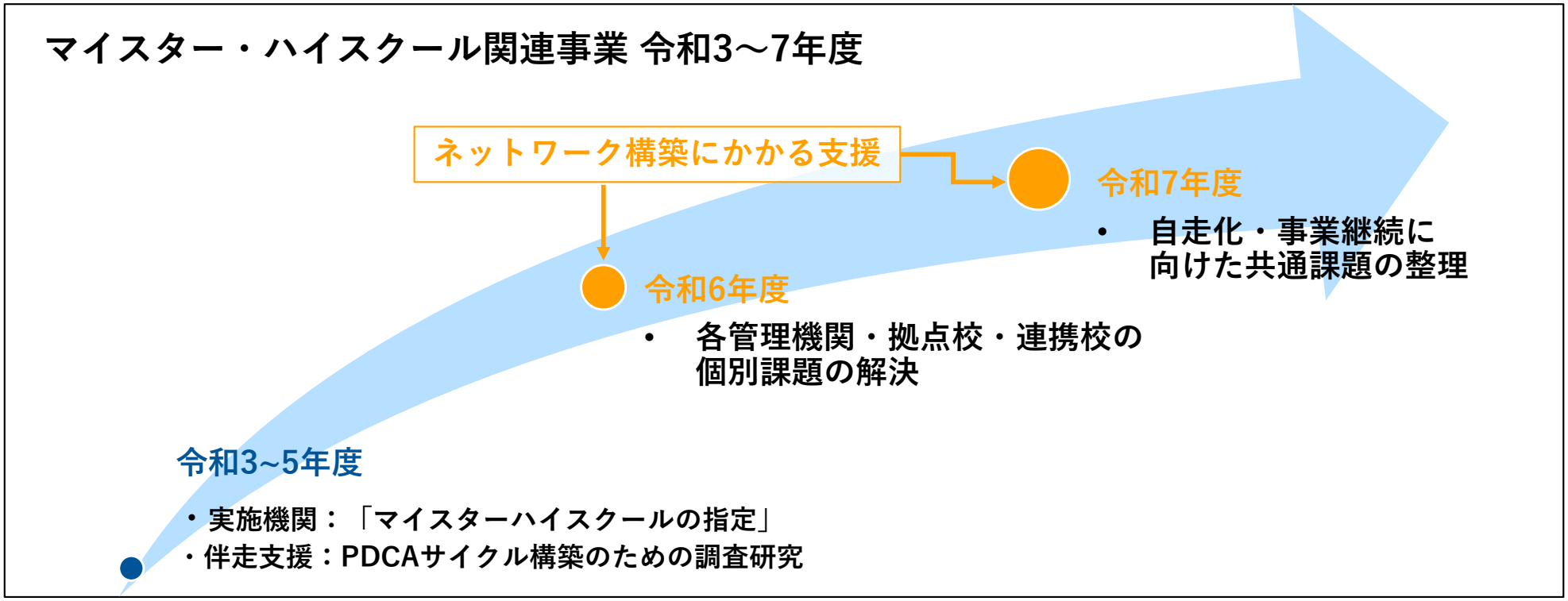
図参照「マイスター・ハイスクール（次世代地域産業人材育成刷新事業）」（令和7年度予算額）（PDF:313KB）

0-3 ネットワーク構築支援の令和7年度方針と整理軸

令和7年度は、自走化・事業継続に向けた共通課題への対応を方針として、ネットワーク構築支援（伴走支援）を推進しました。

■ 共通課題として整理した論点を、次の4テーマに沿って整理しました。

1. 産学共通ビジョンのつくり方・使い方
2. 産学連携カリキュラムマネジメント
3. 産学連携コーディネーターの効果的な活用
4. 協働体制の自律的な運営



第1章 事業の目的・背景

令和3年度～令和7年度に実施されたマイスター・ハイスクール関連事業の枠組みと、本報告書が対象とするネットワーク構築支援の位置づけ

1-1　令和3年度～令和5年度「PDCAサイクル構築のための調査研究」

令和3年度～令和5年度に実施されたマイスター・ハイスクール事業では、各マイスター・ハイスクール事業実施校での取り組みに対する指導助言や成果の検証などを通じて、PDCAサイクルの構築・運用の推進と成果の普及を目的とした「PDCAサイクル構築のための調査研究」が実施されました（株式会社ソフィアが受託）。

産学官連携による教育課程などの刷新・実践を進める中で、「学校・教員の意識変容や主体性の高まり」「生徒の学びの充実と進路選択の具体化」「企業側の関与の深まり」といった成果が確認されました。こうした成果は、ビジョンの共有を前提とした対話の継続や、個人対個人から組織対組織へと関係性を深める取り組みにより支えられてきました。

これらの令和3年度～令和5年度の取り組みを踏まえ、成果と課題を次のとおり整理しました。

■ **成果（確認された変化）**
- 学校・教員の意識変容と主体性の高まり
- 生徒の学びの充実と進路選択の具体化
- 企業側の意識変容と関与の継続

■ **成果が生まれる条件（関係性の形成）**
- ビジョンの共有を前提とした相互の取り組み
- 組織間の対話の継続（個人対個人から組織対組織へ）
- 協働の体制・仕組みの整備

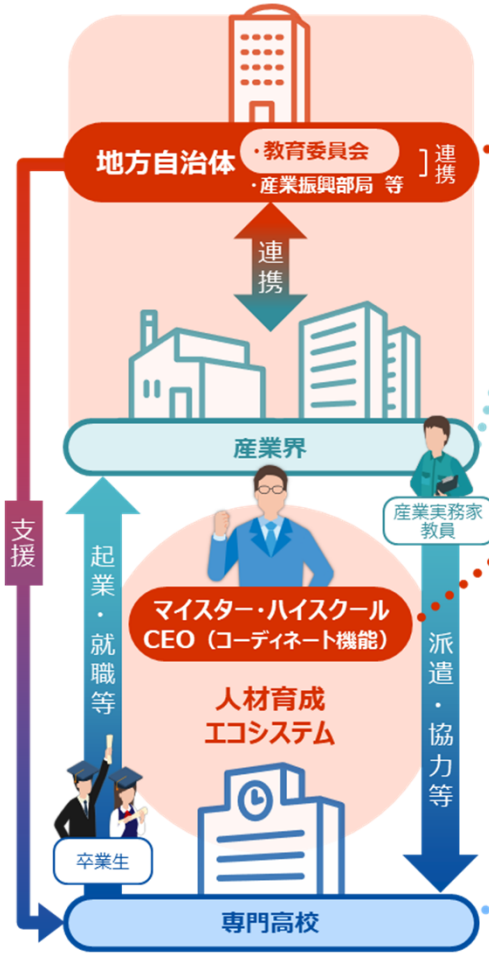
■ **課題（次段階に向けて）**
- 連携・関係性を継続的に深める仕組みの不足
- 関係者間の役割認識のばらつき
- 広域展開に向けた実践知の共有・継承の必要性

1-2　成果から導かれたマイスター・ハイスクールの目指す姿と推進の枠組み

■ 前ページの分析結果を踏まえ、令和3年度～令和7年度に共通する枠組みとして、マイスター・ハイスクールが目指す姿と、その実現に向けた推進の枠組みを示します。

産学連携による産業人材育成のために必要な要素（マイスター・ハイスクール事業の成果より）

文部科学省資料より抜粋



要素①

地域における産業界と教育界の連携体制構築を担う

例えば
- 県内の経済団体との人事交流等や授業見学等の連携体制の構築
- 県と産業団体との人材育成にかかる連携協定の締結

地方自治体による産学連携体制の構築が必要な理由
- いきなり学校側や企業側から連携を持ち掛けるのはハードルが高い
- 組織同士の協力体制が約束事化していることにより、学校と企業の連携につなげやすくなる

達成できること　地域産業界の **持続的発展**

例えば
- 産業界のニーズに適応し、かつ牽引できる人材確保
- 社内人材育成に寄与
- 教育界との持続的関係づくり
- 地元企業の魅力発信

要素②

コーディネート機能を担う

例えば
- お互いの価値観や考え方の違いのすり合わせ
- 学校のニーズを企業が実現できる形で依頼
  - 企業の人材による授業
  - 企業の施設設備を活用した実習　など
- 企業の得意分野を学校教育に落とし込む
- 教員の心理的ハードルを下げる

コーディネート機能が必要な理由

人材育成という目標は同じだが、価値観や考え方が異なることにより、実現までに多くの調整が必要。コーディネーターによって、両者の認識合わせを行い、実現可能な形を作ることができるようになる

イメージ

専門高校		産業界
産業界の最新知識・技術というリソースを活用した実践的教育	実現したいこと	優秀な人材がほしい 産業界を担う人材育成に関わりたい
授業に参画してほしいが、依頼を受けてくれるのか	ハードル	人材を出すことによるビジネスの機会損失リスクの懸念
教育上有効なことを一番に考える企業側の求める特定の分野だけの育成は困難	価値観	自分の企業の利益につながるのか、人材が来てくれるのか、企業としての本来業務がある中で、学校の依頼すべてには応えられない

達成できること　産業人材育成の **教育充実**

例えば
- より時代のニーズに合った専門高校等の教育活動・教育課程の実現
- 専門高校等の特色化・魅力化による定員充足率の向上
- 最先端の産業界等の技術・知識等のリソースの活用
- 企業の施設の活用による高度な研究・実習
- 企業との共同研究や商品開発等の活性化・持続化
- 産業実務家教員による実践的授業
- 産業界の視点を取り入れた学校設定科目

地域の産学連携体制の基盤づくり・**産学連携コーディネート機能を果たす人材**が不可欠な要素

1-3　令和6年度～令和7年度「ネットワーク構築支援」の目的と背景

背景を踏まえ、令和６年度～令和７年度の事業では、ネットワーク構築支援の目的を実行し、実施機関の推進力強化を通じて目指す姿につなげます。

■ 背景

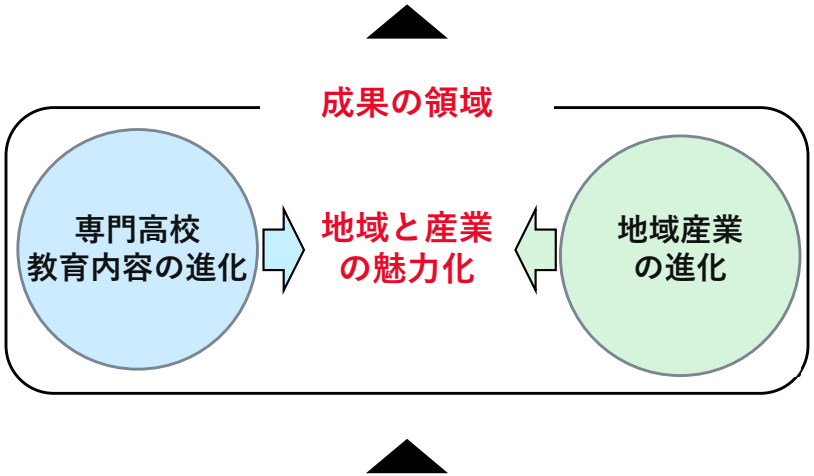
- 産業構造の変化に伴う、産業界が求める人材像の変化と、専門高校に求められる役割の変化
- 地域産業への就職率が高い専門高校における、人材育成を通じた地域産業の進化と地域活性化への期待
- 普及にあたってのビジョン共有と対話の継続を前提とした、学校・企業・自治体の協働体制・仕組みの整備の必要性
- 実施機関ごとの連携成熟度や体制整備状況の差と、取り組みの継続と自走化に向けた共通論点整理の必要性

■ ネットワーク構築支援の目的

1. 実施機関を対象とした広域的ネットワーク「マイスター・ハイスクールネットワーク」の構築・運用支援
2. 実施機関同士の情報交換・相互学習の促進と、取り組みへの助言などの支援
3. 普及・自走化に向けた論点の整理と共通理解の形成（継続・定着の土台づくり）

目指す姿とネットワーク構築支援の役割

目指す姿
教育界・産業界・行政の
継続的な協働体制の維持継続



ネットワーク構築支援の役割

- 勉強会などを通じた相互学習の機会の提供
- 情報交換の場づくりと、実践知の共有・蓄積
- 伴走者の支援、連携ノウハウの提供・助言による推進力の強化
- 実施機関間ネットワークのハブ機能による接続と循環の形成

1-4　「ネットワーク構築支援」の令和7年度の継続課題

令和7年度は、令和6年度の各実施機関・拠点校・連携校の個別課題への支援を踏まえて、自走化・事業継続を見据え、ネットワーク構築支援（伴走支援）で重点的に扱う継続課題を、次の3分類で整理しました。

1.　マイスターハイスクール（令和5年度指定校）

- 産学連携の取り組みおよび協働体制に関する評価とPDCAサイクルの運用
- 自走に向けた資源・資金の調達と、関係者（教育委員会、自治体、産業界など）との調整

2.　先進的取組型

- 普及の取り組み継続に向けた関係部局との連携と調整
- 拠点校・連携校を含む高校間の連携協働
- 普及の先にあるビジョンとエコシステムに関する共通認識づくり

3.　連携体制強化型

- 産業界との共通ビジョンと育てたい人材像の設定
- コーディネーター・CEOの役割の整理（交渉・全体構想・マネジメントの観点）
- 学校内の一体化・組織化とカリキュラムへの組み込み
- 自走に向けた資源・資金の調達と関係者（教育委員会、自治体、産業界など）との調整

これらの継続課題を踏まえ、令和7年度は自走化・事業継続に向けた共通課題に重点を置いた支援を推進しました。

1-5「ネットワーク構築支援」令和7年度に重点的に扱った取り組みとKPI（観点）

前ページで整理した継続課題を踏まえ、令和7年度は、目指す姿である「教育界・産業界・行政の継続的な協働体制の維持継続」に向けて、ネットワーク構築支援の役割を明確にし、実施機関間の情報交換・相互学習の促進と、取り組みへの助言などを支えるハブ機能を強化しました。

あわせて、普及と自走化を進める上での論点を共通課題として整理し、実施機関に共有しながら、取り組みの継続と定着に向けた支援を推進しました。これらの進め方と運営の枠組みは、次章で整理します。

■ 令和7年度の取り組み

1. 共通課題への対応
   - 自走化・事業継続に向けた論点の整理
2. 研修プログラムの設計と実施
   - 産学連携コーディネーターに関する研修
   - 産学連携協働のエコシステムに関する研修
   - 伴走支援に関する研修
3. 実施機関間の情報交換・相互学習の促進
   - 実践知の共有と学びの循環
4. 関連施策への対応
   - 勉強会、ポータルでの案内など

■ KPI（観点）

1. 協働の深まりに向けた事業継続・自走体制の整備
2. 仕組みの定着に向けた事業継続・自走体制の整備
3. 参加と当事者意識に基づく情報交換・相互学習の仕組みの自走化

第2章　実施体制・運営

令和7年度のネットワーク構築支援を実行するための実施体制と運営の枠組みを整理します。事務局・伴走者・アドバイザーの役割分担に加え、会議体と意思決定プロセス、実施事項の進め方を示します。

2-1　ネットワーク構築支援の役割

各管理機関や拠点校・連携校の取り組みを支えるため、ネットワーク構築支援が担う役割を整理します。

■　ネットワーク構築の役割

①　マイスター・ハイスクールの取り組みに対する指導助言などの伴走支援業務

学校や管理機関の取り組みに対する支援体制を構築し、助言などを行うとともに、専門高校と産業界が一体となった職業人材の育成に資するフォローアップ支援を行う。

- 取り組みの実施に向けた支援：体制構築、取り組みの推進、関係者間の役割分担の整理などを支援する。
- 取り組みの継続に向けた支援：指定期間終了後の自走に向けた資金調達と体制構築、取り組みのPDCAサイクルの構築と運用、他地域への展開方策の検討などを支援する。
- 産学連携コーディネーターの資質能力育成に関する支援を行う。
- 連携ノウハウの提供・助言を通じて、実施機関の推進力を強化する。

②　マイスター・ハイスクール実施機関を対象とした広域的ネットワーク

「マイスター・ハイスクールネットワーク」を組織し事務局を担う。実施機関間の情報交換、共通課題について議論する場の設定、定例会の実施などを通じて、実施機関をつなぎ、相互に学び合うネットワークを運営する。

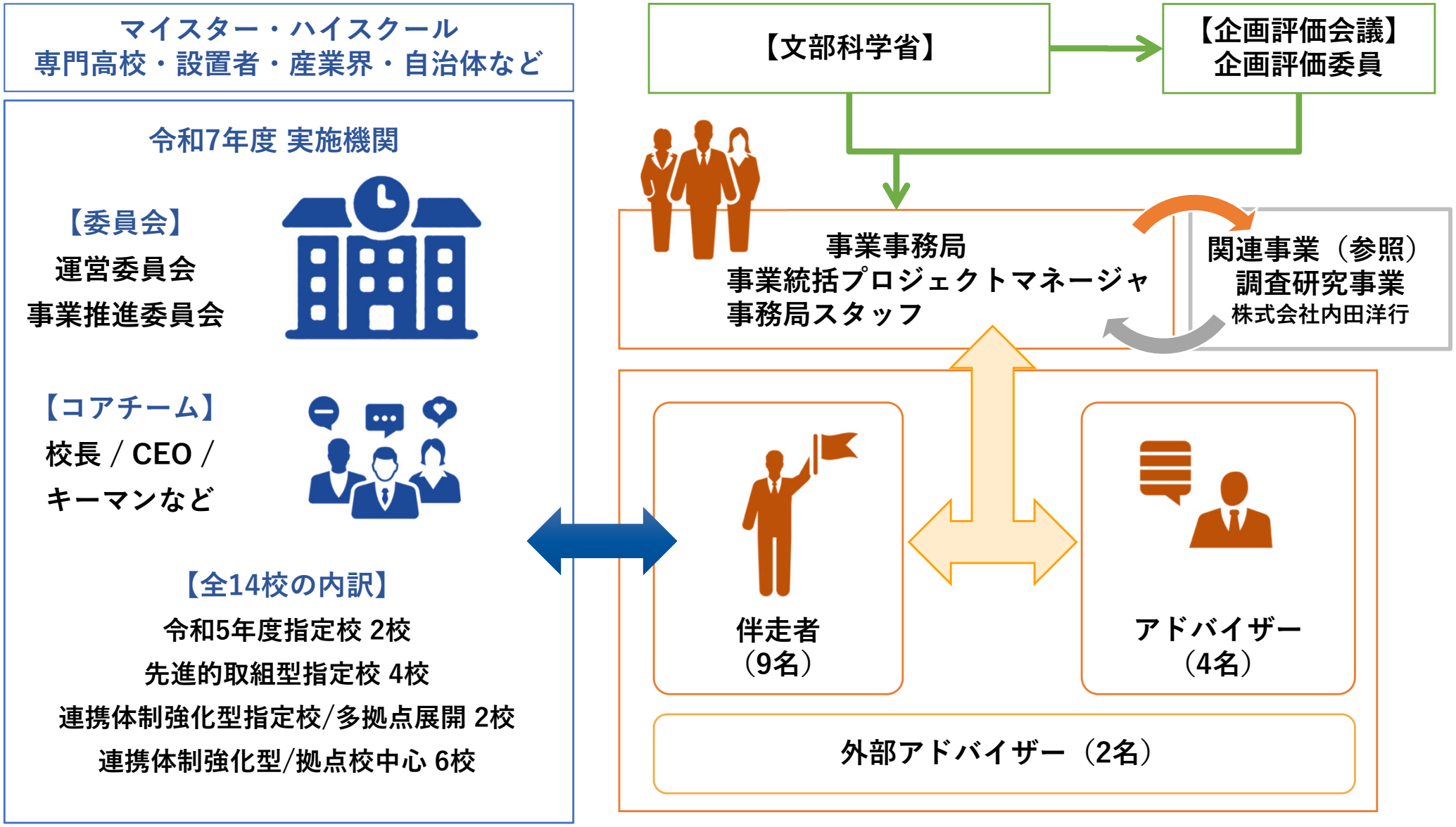
- 「連携体制強化型」の課題などに応じて「先進的取組型」から適切な指導助言ができる人材を紹介する。
- 実施機関間の情報交換、共通課題について議論する場の設定、定例会を実施する。

③　マイスター・ハイスクールの事業成果発表会

- 広く社会一般にマイスター・ハイスクールの成果を公開し、好事例の普及を図るため、年度末を目途に、事業成果発表会を行う。

2-2　ネットワーク構築支援の実施体制（体制図）

運営体制は以下の通り。文部科学省、企画評価会議、マイスター・ハイスクール実施機関、事務局、伴走者、アドバイザーがそれぞれの役割を担い推進します。



2-3　ネットワーク構築支援の区分別実施事項

■　伴走支援事務局を中心に、実施機関との連携の下で以下の実施事項を推進しました。

区分	主な対象	実施事項（令和7年度）
マイスタ・ハイスクール 令和5年度指定校 伴走支援	令和5年度指定校	• 事業継続・自走化に向けた課題整理 • 取り組みの振り返りと改善支援 • 実践知の共有
先進的取組型 伴走支援	先進的取組型の実施機関	• 先進事例の整理と共有 • 実施機関への助言・支援 • 相互学習の促進
連携体制強化型 伴走支援	連携体制強化型の実施機関	• 共通ビジョンと育てたい人材像の検討支援 • 役割整理と体制づくり支援 • 産学連携コーディネーターの育成支援
ネットワーク構築・運営	実施機関 （実施校・教育委員会など）	• 情報交換会・勉強会の企画運営 • 実践知および課題の共有と、勉強会などを通じた学びの循環の促進
成果発表会・広報	実施機関、関係者、社会一般	• 成果発表会の企画運営 • 成果の可視化と普及に向けた情報発信
事務局運営	文部科学省、企画評価会議、 実施機関など	• 会議体運営 • 連絡調整 • 資料作成 • 情報基盤の運用 • 各種手続き

2-4　ネットワーク構築支援を推進する会議体の全体像

■ 事務局を中心に、文部科学省、伴走者、アドバイザーなどが会議体を通じて論点を共有し、実施機関への支援の実効性を高める運営を行いました。

会議体	主な参加者	目的	主なアウトプット	開催頻度（目安）
定例会	文部科学省、伴走支援事務局、伴走者、アドバイザー、関係者（調査研究事業側など）	現場状況の共有、支援方針のすり合わせ	共通認識の形成、支援観点の統一、次アクションの整理	月次定期開催
勉強会など	実施機関、伴走者、アドバイザーなど	実践知の共有、相互学習	実践事例の共有、共通課題の整理	テーマに応じて随時
伴走支援先との打合せ	実施機関、伴走者、必要に応じて事務局など	個別課題の整理、推進上の支援	課題の明確化、対応方針の整理、フォロー事項の確認	必要に応じて随時
成果発表会関連	文部科学省、事務局、実施機関など	成果の整理、発信準備	発表内容の整理、公開に向けた準備	年度末に一回
文部科学省が主催する企画評価会議への対応	文部科学省、企画評価委員、伴走支援事務局など	運営状況の確認、論点の整理	重点論点の確認、運営方針の整理	年度内に複数回

2-5　令和7年度 伴走者の一覧/9名

■　令和7年度の伴走者の役割と担当地区は以下の通り

氏名	所属・職名	役割など	担当地区
岡崎 エミ	前東北芸術工科大学　コミュニティデザイン学科長 安平町教育委員会_子育て・教育総合専門官	伴走者（居住地区：山形）	山形県教育委員会
取釜　宏行	株式会社しまのみらい 代表取締役社長 広島県立大崎海星高校魅力化推進コーディネーター 一般社団法人まなびのみなと代表理事	伴走者（居住地区：広島）	兵庫県姫路工業高校
斉藤 誠太郎	合同会社トイデザイン　代表社員	伴走者（居住地区：宮城）	仙台市立仙台工業高等学校 宮城県加美農業高等学校
月館 海斗	株式会社すみか　代表取締役	伴走者（居住地区：北海道）	北海道教育委員会
羽田野 祥子	教育プランナー	伴走者（居住地区：宮崎）	学校法人一川学園清和学園高等学校 熊本県教育委員会 宮崎県立宮崎農業高等学校
原 久美子	株式会社ソフィアクロスリンク キャリアコンサルタント	伴走者（居住地区：東京）	学校法人沼津学園飛龍高等学校
廣田 拓也	株式会社ソフィア　代表取締役	伴走支援事業統括及び 伴走者（居住地区：東京）	愛知県立古知野高等学校 長崎県
山本 一輝	Idea partners 代表、Inquiry.LLC Founder　CEO	伴走者（居住地区：新潟）	新潟県教育委員会 福井県教育委員会
森　大幸	株式会社ソフィア ワークショップデザイナー	伴走者（居住地区：東京）	三重県教育委員会

2-6　令和7年度 アドバイザーの一覧/4名

■ テーマや課題ごとに、伴走者とともに現場を支援していくアドバイザーは以下の通りです。

氏名	所属・職名	アドバイザー専門分野
中森 一郎	福井大学　教授 前　福井県教育委員会　教育監 元　福井県立若狭高等学校　校長	教育：専門高校改革
岩井 秀樹	福島大学　地域未来デザインセンター特任教授 一般社団法人ネイパーフッドラボたむら	産業：産学連携
中村 怜詞	国立大学法人島根大学　教職大学院　教育学研究科 准教授	教育：学校組織開発
平林 泰直	株式会社ソフィア サステナビリティ共創リード	産業：サステナビリティ、SDGs

■ 外部アドバイザーは、以下の通りです。

氏名	所属・職名	アドバイザー専門分野
山下 真司	ベネッセ教育総合研究所 主席研究員 独立行政法人教職員支援機構 フェロー	教育：カリキュラムデザイン
富松 篤典	元熊本県立八代工業高等学校マイスター・ハイスクールCEO・元株式会社電盛社常務取締役	産業：産学連携

第3章　実施機関及び伴走支援の概要

本章では、令和7年度に伴走支援を行った実施機関を区分別に整理するとともに、伴走支援のスタンス及びポイントを総括します。

3-1 令和7年度 実施機関別の状況区分別一覧

令和7年度に伴走支援を行った実施機関を区分別に示します。次頁以降で、各区分の状況と主なトピックスを簡潔に整理します。

■ 実施機関一覧（区分別）

区分名	区分名の説明	実施機関
マイスターハイスクール 令和5年度指定校	先行事例として取り組みの定着と自走化を見据えた支援対象	清和学園高等学校（埼玉県） 仙台工業高等学校（宮城県）
先進的取組型	先進事例の深化と、普及に向けた整理・共有を進める支援対象	北海道 新潟県 福井県 熊本県
連携体制強化型 （多拠点展開）	県域での展開を見据え、全県での取り組み対象	山形県 長崎県
連携体制強化型 （拠点校中心）	拠点校を中心に連携体制を具体化し、基盤づくりを進める支援対象	宮城県 静岡県 愛知県 兵庫県 宮崎県 三重県

3-2-1　マイスター・ハイスクール（令和5年度指定校）｜事業概要

学校名	仙台市立仙台工業高等学校（宮城県）	清和学園高等学校（埼玉県）
代表管理機関	仙台市教育委員会	学校法人 一川学園
管理機関（産業界）	一般社団法人 宮城県情報サービス産業協会	東日本電信電話株式会社 埼玉事業部 埼玉西支店
管理機関（自治体）	仙台市	越生町
対象学科	工業	工業・家庭
ビジョン	「働きたい街SENDAI」を目指して～ 「地学地域」を目的とした（仮称）IT科と（仮称）IT専攻科の創設と「産学官連携によるデジタル技術を活用できるエンジニアの育成」	レジリエントな町と産業を支えるニュースクール時代のSX人材育成モデルの構築
事業概要	• 地域経済の中心となる中小企業の活性化を見据え、IT関連企業の集積を背景に、産学官連携による先端技術の実装と職業人材育成の充実を図る。 • 工業分野の企業（3DCAD、CAE、BIM、FAなど）と連携し、実践的な学びを通じてデジタル技術を活用できる人材育成を目指す。	• 近年のICT・IoTの急速な進展を背景に、地域産業を支える人材育成の在り方を見直す。 • 越生町の地域資源（梅・ゆずなど）を生かし、一次から二次、三次にわたる産業の価値向上と課題解決を図る取り組みを通じ、地域と産業を支える人材育成モデルの構築を目指す。
成果発表会動画	www.youtube.com/@mextchannel	www.youtube.com/@mextchannel

3-2-2　先進的取組型 1/2｜事業概要

代表管理機関	北海道	新潟県
拠点校	北海道更別農業高等学校（農業科） 北海道室蘭工業高等学校（工業科） 北海道旭川商業高等学校（商業科） 北海道小樽水産高等学校（水産科）	新潟県立海洋高等学校
管理機関（産業界）	北海道経済連合会／公益財団法人北海道科学技術総合振興センター／一般社団法人北海道農産協会／北海道産業教育審議会	株式会社能水商店／能生町観光物産センター／糸魚川信用組合／上越漁業協同組合／能水商工漁業協同組合／上越市立水族博物館／株式会社柏崎エコクリエイティブ／合同会社コンベジタブル／有限会社SKフロンティア／近畿大学水産研究所
対象学科	農業	農業・水産
ビジョン	北の専門学校ONE-TEAMプロジェクト	次世代の水産業・農業を担うプロフェッショナルの育成
事業概要	• 静内農業高校で蓄積された連携・協働の知見を踏まえ、北海道教育委員会に産学連携コーディネーターを配置し、専門高校と産業関連機関などをつなぐことで実践的な職業教育の充実を図る。 • 企業ヒアリング調査などを基に、協力可能な職業人情報を整理した産業実務家教員リストを作成し、道内の専門高校間で共有・活用を促進する。 • 産業構造の変化に対応した指導に資するガイドブックを制作・配付し、産学連携カンファレンスを開催する。 • これらを束ね、道内の専門高校を結ぶ「北の専門高校プラットフォーム」の創設を目指す。	• 新潟県立海洋高等学校のこれまでの取り組みを深化・発展させるとともに、その成果を高田農業高等学校に普及することで、高田農業高等学校においても産業界と連携した実践的な教育活動を推進する体制の構築を目指す。 • 本取り組みは、マイスター・ハイスクールの普及促進を、高田農業と海洋高校の名称から「TAN-KY（探究）プロジェクト」とする。 • 産業界と連携し、CEOや産業実務家教員などの知見を活用しながら、地域課題の解決と人材育成につながる実践を推進する。
成果発表会動画	www.youtube.com/@mextchannel	www.youtube.com/@mextchannel

3-2-3　先進的取組型 2/2｜事業概要

代表管理機関	福井県	熊本県
拠点校	福井県立坂井高等学校／福井県立武生商工高等学校	熊本県立八代工業高等学校／熊本県立玉名工業高等学校／熊本県立熊本中央高等学校／熊本県立天草工業高等学校
管理機関（産業界）	福井県商工会議所連合会／福井県商工会連合会／福井県中小企業団体中央会／福井大学／福井県立大学	一般社団法人熊本県情報サービス産業協会／一般社団法人熊本県工業連合会／株式会社構造計画研究所／西部電設株式会社／九州デジタルソリューションズ株式会社／株式会社熊本計算センター／ソニアコーデンシステム株式会社／熊本県建設業協会玉名支部／玉名商工会議所／デジタルハリウッド株式会社／株式会社中九州ダイハツ／熊本県人権福祉教育推進協議会／株式会社熊本通信システム／株式会社「岳（がく）」／熊本県建築士会天草支部／天草市建友会／天草電気工事協同組合／九州網戸溶接株式会社／祇園セミコンダクターズ株式会社／ルネサスセミコンダクタマニュファクチュアリング株式会社川尻工場／シナジーシステム株式会社／八代市／玉名市／阿蘇市／天草市 など
対象学科	農業／工業／商業／水産／家庭	工業／商業／農業／福祉
ビジョン	産学共創による輝く地域人材育成システム推進事業	熊本版マイスター・ハイスクールによる持続可能な産業人材の育成（自律的に学ぶ生徒、学校と産業界の絶え間ない協働）
事業概要	• 県（教育委員会、産業労働部）と、事業運営委員会に属する産業界の団体などを通じて、県内全域の企業などが専門高校との連携を視野に入れた協力体制を構築し、各校が連携してカリキュラム改善や体系的な教育活動を実践することを目指す。 • 拠点校を核に、これまでのマイスター・ハイスクール事業で培ったコンソーシアム運営やCEOによるコーディネート機能の経験を、若狭高校など県内の専門高校へ共有する。 • 産学連携コーディネーターの育成・活用方法などを含め、事業運営委員会と連携しながら、拠点校の取り組みを他校へ広げ、県内での普及・促進を図る。	• 八代工業高等学校などにおけるマイスター・ハイスクール事業の成果を活用しながら、新規拠点化に向けて「産業人材育成活動の複数校での導入」と「学校と産業界が自律的・持続的に連携する仕組みづくり」の観点から事業を推進する。 • 導入の過程で得られた知見を分析・整理し、取組をドキュメントとしてパッケージ化・周知することで、成果の県内への普及に取り組む。 • 産業界との合意形成と連携のプロセス、学校内での取り組みのルール化、産学連携コーディネーターの在り方、他校展開に向けた成果普及に係る情報発信や周知の在り方などを整理し、県域での展開を図る。
成果発表会動画	www.youtube.com/@mextchannel	www.youtube.com/@mextchannel

3-2-4　連携体制強化型（多拠点展開）｜事業概要

代表管理機関	山形県	長崎県
拠点校	県内専門高校（計15校）	県内専門高校（計15校）
管理機関（産業界）	県内企業／大学関係者／商工会議所関係者／学校関係者／地域関係者 など（幅広い関係者参画）	長崎県農業協同組合連合会（JA長崎県中央会）／ながさき半導体ネットワーク／長崎県商工会議所連合会／長崎県情報産業協会／長崎県漁業協同組合連合会 など（分野別の協議体）
対象学科	農業／工業／商業／水産／看護／福祉／情報	農業／工業／商業／情報／水産／福祉
ビジョン	次世代地域産業人材育成事業（県域の連携体制強化と展開）	NEXT長崎人材育成事業（分野別協議体を核にした連携体制の強化）
事業概要	• 県教育委員会における取り組みとして、地域産学連携コーディネーターの派遣を通じ、コンソーシアムを設置する産業系専門高校に対して、地域産学連携や産業界との連携強化を図る。 • 教育委員会による打合せを行い、協議の場を設定するほか、産業教育連携協議会および研修会を開催する。 • 拠点校の取り組みとして、各産業分野の次世代分野に関する講義や実習、産業界における研修（長期インターンシップ含む）などを実施し、専門学科の学習の魅力について情報発信を行う。	• 長崎型産学連携コーディネーターとして「民間経営者、校長経験者、知事部局職員」を配置し、産業界と学校の連携を各分野の協議体を核として整備する。 • 専門高校全体の学びの充実を図るため、分野ごとの協議会（コンソーシアム）を設置し、企業担当者と高校教員による意見交換などを通じて、求める資質・能力の明確化と学校教育への反映を進める。 • 県内産業や大学などの知見を取り入れ、外部人材の活用やノウハウ、産業界との連携強化を図り、将来的な産業人材育成に資するカリキュラムの開発につなげる。
成果発表会動画	www.youtube.com/@mextchannel	www.youtube.com/@mextchannel

3-2-5　連携体制強化型（拠点校中心） 1/3｜事業概要

代表管理機関	宮城県	静岡県
拠点校	宮城県加美農業高等学校	学校法人沼津学園 飛龍高等学校
管理機関（産業界）	日本自動車教育振興財団／ヤンマーアグリジャパン株式会社東北支社／国立研究開発法人NICT など	スズキ株式会社／アイリスオーヤマ株式会社／学校法人幾徳学園 神奈川工科大学
対象学科	農業機械	工業
ビジョン	産業界をリードする創造的アグリテックエンジニアの育成 ～深化した探究学習により地域から未来人材を発信～	Society5.0実現を牽引する未来型思考型産業人材育成プログラム ～カーテクノロジーミュージアムによるSTEAM教育の実践と普通科への普及～
事業概要	• 地域のニーズに対応した探究学習の推進を軸に、産学官連携による学びを展開する。 • 融合実習の系統的な実施を通じて、実践的な技術の習得と発信を図る。 • 連携授業や共同研究の実践、地域中学校での出前授業や協働学習による普及・発信を行う。 • 学校変革科目「スマート農業」への移行準備、デュアルシステムの実践、先進地視察・研修の実施、成果発表会の実施などを進める。 • あわせて、求められる技術・人材に関する情報共有を行う。	• EVなど次世代自動車に対応した産業人材の育成を目指し、関連カリキュラムを開発する。 • 既存の実習場を活用し、実機や展示などを通じて学ぶSTEAM教育の場を整備する。 • 普通科に工業系（STEAM系列）の教育課程を編成し、教科横断の授業改善と評価方法の開発を進める。 • 就職支援として就労体験（国内外インターンシップ）や起業プログラムを取り入れた学びを設計する。 • あわせて、海外人材の受入れや本校生徒の海外インターンシップに向けた体制整備を行う。 • 成果の取りまとめと成果報告会、県内企業や他校と連携したワークショップや交流を実施する。
成果発表会動画	www.youtube.com/@mextchannel	www.youtube.com/@mextchannel

3-2-6　連携体制強化型（拠点校中心） 2/3｜事業概要

代表管理機関	愛知県	兵庫県
拠点校	愛知県立古知野高等学校	兵庫県立姫路工業高等学校
管理機関（産業界）	社会福祉法人愛生館／社会福祉法人貞徳会／公益社団法人愛知県理学療法士会／一般社団法人地域福祉活動協会／株式会社ケアコネクトジャパン／株式会社ビジョナリー／株式会社森津介護サービス／同朋大学／日本福祉大学／社会福祉法人江南市社会福祉協議会／江南中部地域包括支援センター	プライムプラネットエナジー＆ソリューションズ株式会社／パナソニックエナジー株式会社／株式会社GSユアサ／近畿経済産業局／電池工業会（BAJ）／電池サプライチェーン協議会（BASC）／関西蓄電池人材育成等コンソーシアム
対象学科	福祉	蓄電池分野
ビジョン	DX時代をリードする高度介護人材の育成愛知から始まる高校福祉の新潮流	カーボンニュートラルへの挑戦！～蓄電池業界を引っ張るゲームチェンジャーの育成～
事業概要	• 古知野高等学校を拠点校とし、産業界などと連携・一体化した実践的な教育活動を推進し、その成果を域内で共有することで、県全体の福祉・介護業界の活性化につなげる。 • 産業実務家教員などによる福祉・介護現場におけるICT・IoTの活用に関する学習や、科学的裏付けに基づく介護に関する学習を実施し、テクノロジーを活用する力と情報活用能力を育成する。 • 生徒が課題解決に向けた提案を行う課題解決型探究学習（KOCHINO PBL）を実践し、協働する力と課題解決力を育成する。 • 公開授業日などの機会を整備し、県内外の福祉関係者の視察や意見交換を通じて、新たな連携の創出を図る。	• Society5.0時代に適応できる工業高校の実現に向け、産学共創による工業高校のものづくりを通じて、新しい価値の創出や課題解決に貢献できる人材育成を進める。 • 蓄電池分野の探究プログラムを柱とし、関西蓄電池人材育成等コンソーシアムの枠組みを活用して、産業界や大学などによる講義・実習を通じた専門知識と技術の習得を図る。 • カーボンニュートラルをテーマとした探究学習を実施し、蓄電池の基礎・応用、製造や安全、活用などを学ぶとともに、成果発表などを通じて学びを深める。 • 中学生などへの出前授業、企業・大学などの視察機会、交流の場づくりなどを通じて、拠点校からの情報交換・発信を行う。
成果発表会動画	www.youtube.com/@mextchannel	www.youtube.com/@mextchannel

3-2-7　連携体制強化型（拠点校中心） 3/3｜事業概要

代表管理機関	宮崎県	三重県
拠点校	宮崎県立宮崎農業高等学校	県立明野高等学校／県立みえ夢学園高等学校 連携校：県立朝明高等学校／県立伊賀白鳳高等学校
管理機関（産業界）	宮崎大学／南九州大学／宮崎県経済農業協同組合連合会／一般社団法人宮崎県建設業協会／ローカルフードコーディネーター など	三重県社会福祉協議会
対象学科	農業・家庭	福祉
ビジョン	持続的な食料システムを担う次世代リーダー育成事業	とびだせ！はたらけ！みえふくっ子！ ～みえの次世代を担う福祉系人材の育成～
事業概要	• 産業界などとの連携が持続的に展開できるよう、組織的な体制を構築する。 • 体制の下で、地域産業の現状と求める人材像、学校の教育目標を共有し、教育の具体方策や人材育成プログラムを開発する。 • 宮崎農業高等学校を研究拠点として研究を行い、同校の専門学習を体系化する。 • 学科横断的な教育課程を開発し、拠点校からの水平展開を通じて、連携体制を各学科との「線」から学校との「面」へ発展させ、協働体制の確立を目指す。 • 食料システムを題材に、生産・加工・流通・販売を意識した学習を行い、先進事例の視察なども取り入れながら、次世代リーダーを育成する。	• 県内福祉系高等学校と産業界との連携体制を構築する。 • 事業運営委員会と事業推進委員会で、課題、育成したい福祉系人材像、事業内容を協議し、各校で課題発見・課題解決能力の育成に資する取り組みを実施する。 • 先進的な福祉機器などの学習を行い、福祉の魅力を発信する取り組みを実施する。 • 学識経験者、実習受入先の実習指導者、事業所職員などを交えたコンソーシアムなどを設置し、連携体制を強化する。 • 介護ロボットなどの学習、施設や開発企業の見学、外部講師の活用を進める。 • 拠点校・連携校の生徒が地域で出前授業や交流会を実施し、福祉の魅力を発信する。
成果発表会動画	www.youtube.com/@mextchannel	www.youtube.com/@mextchannel

3-3　実施機関への伴走支援のスタンス

令和7年度の伴走支援では、各実施機関の個別課題に対応しつつ、自走化及び事業継続に向けた共通課題への対応を重視した。特に、令和7年度は、産学共通ビジョンのつくり方及び使い方、産学連携カリキュラムマネジメント、産学連携コーディネーターの効果的な活用、協働体制の自律的な運営の4テーマを整理軸としながら、実施機関の状況に応じて伴走支援を行った。

■　伴走支援スタンス

項目	内容
基本姿勢	各実施機関の状況及び成熟度を踏まえつつ、一律の正解を示すのではなく、各地域にとって必要な論点を整理し、関係者が自ら考え、判断できる状態づくりを支援した。
支援のねらい	取り組みの実施支援にとどまらず、事業終了後も継続及び発展できる体制づくり、自走化及び事業継続に向けた土台づくりを重視した。
支援の方法	定例的な進捗確認及び個別相談、会議への参加、論点整理、関係者間の対話支援、勉強会及び情報交換会を通じた実践知の共有などを組み合わせて支援した。
重視した観点	産学共通ビジョンの明確化、教育課程への反映、校内体制及び協働体制の整備、コーディネーターの役割整理、協働体制の自律的な運営などを重視した。

3-4　実施機関への伴走支援のポイント

■ 伴走支援のポイント

伴走支援のポイント	実施した支援の概要
① 進捗確認 ：ペースメイキング	各実施機関の取り組み状況を定期的に確認し、進行が停滞している場合には、関係者とのコミュニケーション支援、打合せの設定、論点整理、優先順位の確認などを行った。 あわせて、次に何を進めるべきかを明確にし、実行に移しやすい状態づくりを支援した。
② 本質回帰 ：ビジョン及び方向性の問い直し	日々の実務対応に追われるなかでも、何のための取り組みか、どのような人材を育てたいのか、誰と何を実現したいのかといった原点に立ち返る対話を支援した。取り組みの自走を見据え、関係者間で目的及び方向性を再確認し、共通ビジョンの言語化及び共有を促した。
③ 課題形成 ：課題整理及び論点形成	目の前の個別課題への対応だけでなく、次の段階に進むために何を論点として設定すべきかを整理した。体制、役割分担、教育課程への反映、協働の進め方、評価及び振り返りの仕組みなどについて、実施機関ごとに必要な問いを明確化し、課題形成を促進した。
④ 孤立化の防止 ：実践知の共有及び横展開	各地域で得られた実践知や課題を勉強会、情報交換会、ポータル等を通じて共有し、他地域の取り組みから学べる機会を設けた。他地域の事例を参照しながら、自地域での取り組みに生かせる観点を整理し、学びの循環につなげた。
⑤ 当事者性の向上 ：関係者間の対話及び協働の促進	学校、管理機関、産業界、自治体、コーディネーターなどの関係者が相互に状況を共有し、同じ方向を向いて進めることができるよう、対話の場づくり及び認識合わせを支援した。必要に応じて役割分担の整理及び関係者間の接続支援も行った。

■ 総括

- 令和7年度の伴走支援では、各実施機関の状況に応じた個別支援を行いながら、実施機関に共通する課題を整理し、対話及び学び合いを通じて自走化及び事業継続に向けた土台づくりを進めた。
- 伴走支援は、単なる進行管理や助言にとどまらず、実施機関が自ら取り組みを振り返り、方向性を問い直し、次の一歩を考えられる状態をつくることを目指して実施した.

第4章 ネットワーク構築支援の成果

勉強会（計8回）を中心に、情報交換会、各地域のイベント／視察、ポータルサイトを通じた実施機関間の情報共有と相互学習の成果を整理しました。

4-1　勉強会による相互学習の促進：実施概要一覧（計8回）

- **実施機関間の情報交換と相互学習を通じて実践知を共有し、自走化・事業継続に向けた共通課題の論点整理を進めるため、勉強会を実施しました。**
- **なお、本章では情報交換会、各地域のイベント／視察、ポータルサイトの取り組みもあわせて整理します。**
- **勉強会一覧**

名称	開催日	内容概要	参加人数	役立ち度
第1回勉強会	2025年4月28日／5月1日	産学連携に関する実態調査及び成果検証を読み解く	54名	91%
第2回勉強会	2025年6月20日	令和3年度の事業終了校の取り組み紹介	26名	100%
第3回勉強会	2025年7月9日	地域金融機関から見たマイスター・ハイスクール	16名	100%
第4回勉強会	2025年8月22日	山形県の未来を高校生が変える！ーやまがたAI部の取り組みー	15名	100%
番外編	2025年9月17日	伝わるプレゼンテーションの極意	51名	100%
第5回勉強会	2025年9月19日	持続可能な協働体制に向けて	40名	100%
第6回勉強会	2025年10月30日	製造業の人事部の方にいろいろ聞いてみよう	12名	100%
拡大勉強会	2026年1月29日	これからの人材観や生徒観について対話（問題の外在化／メンタルモデル理解）	23名	—

4-2-1　第1回勉強会「調査研究事業による調査結果報告会」

■ **テーマ:「産学連携に関する実態調査及び成果検証を読み解く」**

■ **参加者　54名/12地域**

■ **実施方法　オンライン**

■ **テーマとねらい**

- テーマ：調査結果を踏まえた現状把握と論点の共有
- ねらい：実施機関間での課題認識のそろえ／自走化に向けた論点の整理

■ **主な共有内容**

- 管理職と担当教員の受け止めの差の可視化（クロス分析の共有）
- 教員の業務負担と心理的安全性の両立の必要性（負担の削減と浸透の関係）
- 自走化に向けた課題の整理と共有（関係者間での共通理解の形成）

■ **参加者の声**

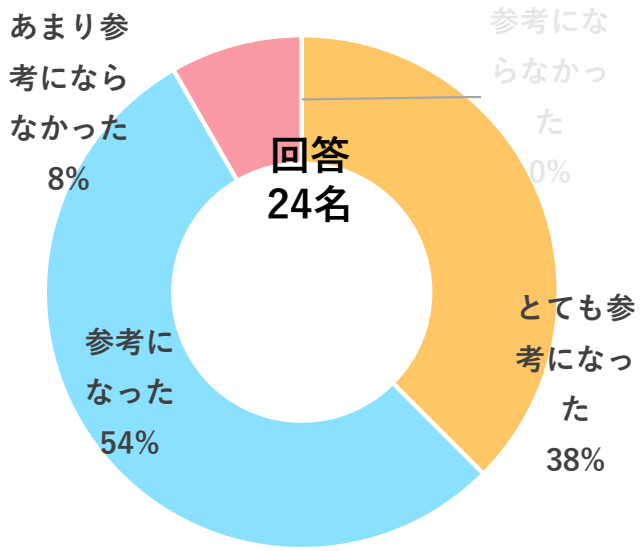
- 「参加者は『着火』しているが、校内での広がりが課題」
- 「生徒アンケートは変化が見えにくく、評価の観点の工夫が必要」
- 「不安もあるが、勉強会と伴走者の存在が前に進む支えになる」

■ **次につながるポイント**

- 校内外へ広げるための工夫と、負担に配慮した進め方の検討

お役立ち度：91%

勉強会に対する評価



あまり参考にならなかったの意見

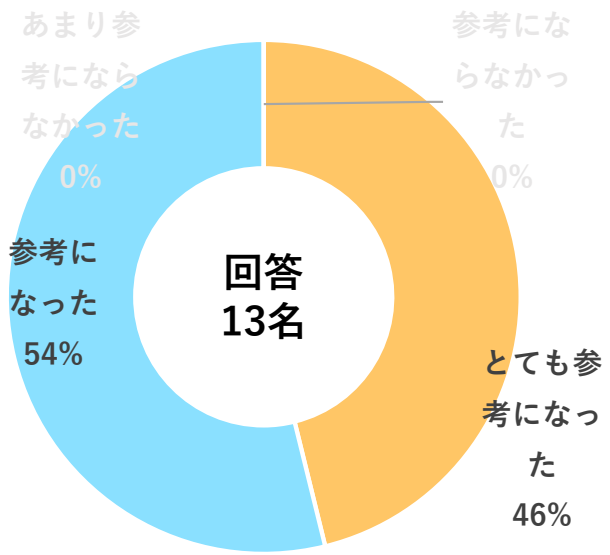
- 数値の結果が多く、実際の動きに為になる項目が少なく感じた。(教諭/今年度からの参加)
- 一教員としては、できれば１時間以内にしていただきたいと感じた。(同上)

4-2-2　第2回勉強会「令和3年度の事業終了校の自走事例紹介」

- **テーマ:「令和3年度の事業終了校の自走事例紹介」**
- **参加者：26名／北海道、山形県、宮城県、新潟県、埼玉県、静岡県、福井県、愛知県、兵庫県、鳥取県、長崎県、宮崎県、伴走者ほか**
- **実施方法　オンライン**
- **テーマとねらい**
  - テーマ：事業終了後の自走事例の共有
  - ねらい：事業終了後を見据えた継続体制の具体化／自走化に向けた論点の整理
  - ゲスト
    - 岡山県立真庭高等学校竹内校長、杉本先生、平田コーディネーター
    - 福井県立若狭高等学校 毛利先生
- **主な共有内容**
  - 自走事例の共有（若狭高等学校、真庭高等学校などの事例発表）
  - 自走に必要な体制・役割の整理（管理機関、学校、関係者の関わり方）
  - 継続に向けた論点の明確化（資源・資金、校内浸透、関係者連携の観点）
- **次につながるポイント**
  - 自走化の条件整理と横展開に向けた論点の共有

お役立ち度：100%

勉強会に対する評価



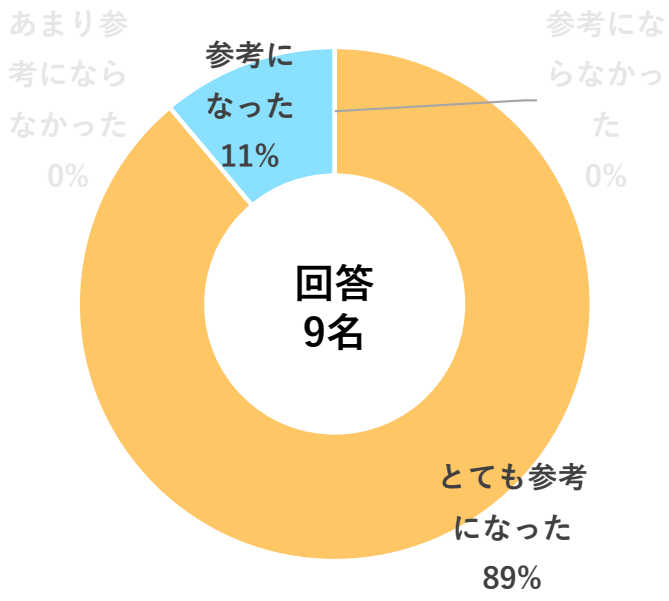
回答者内訳
教育委員会2、学校9、企業2

4-2-3　第3回勉強会「地域金融機関から見たマイスター・ハイスクール」

- **テーマ:「地域金融機関から見たマイスター・ハイスクール」**
- **参加者：16名／山形県、新潟県、埼玉県、福井県、静岡県、長崎県、熊本県、宮崎県（ほか内田洋行、伴走者参加）**
- **実施方法　オンライン**
- **テーマとねらい**
  - テーマ：地域金融機関から見たマイスター・ハイスクール
  - ねらい：産学連携の必要性・可能性に関する理解の共有／産業界への周知・関与に向けた論点の整理
  - ゲスト：肥後銀行 地域振興部地方創生室　津村伸行様／長崎県教育庁 産学連携コーディネーター　長尾和弘様
- **主な共有内容**
  - 産学連携の推進に必要な前提の整理（必要性・可能性の認知の重要性）
  - 地域金融機関が担う役割の共有（データなどに基づく周知、産業界への発信）
  - 肥後銀行（熊本）の事例：地域金融機関のネットワークと産業界情報を強みに、県内外での産業講話などを実施し、産業界と学校の連携を推進
  - 長崎県の事例：金融教育やアントレプレナーシップ教育などを重視し、観光DXや水産×DX×6次産業などの分野と連動したネットワーク形成・基盤整備を推進
  - 普及に向けた論点の整理（関係者の巻き込み、役割分担の考え方）
  - 地域ブランド価値への寄与の視点（教育・産業の質の高さを内外に発信し、価値向上に寄与する役割）
- **次につながるポイント**
  - 産業界への周知と関与を広げるための説明の仕立てと、関係者の役割分担の明確化

お役立ち度：100%

勉強会に対する評価



回答者内訳
教育委員会3は、学校4、企業1、その他1

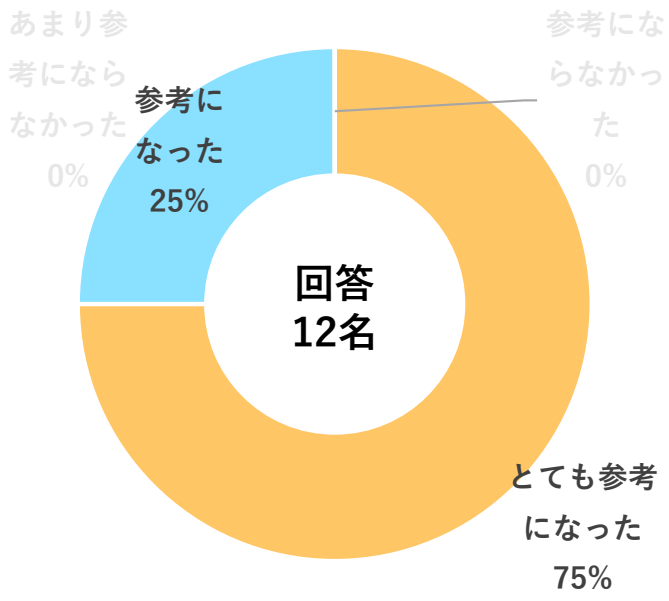
参加者の声
- 「産学連携を進める上で重要なのは、必要性や可能性の認知だと理解できた」
- 「地域金融機関がデータなどで把握し、産業界へフラットに周知できる立場だと分かった」

4-2-4　第4回勉強会「やまがたAI部：産業界の取り組み紹介」

- **テーマ:「山形県の未来を高校生が変える！―やまがたAI部の取り組み―」**
- **参加者：15名／山形県、宮城県、新潟県、埼玉県、静岡県、長崎県、熊本県、宮崎県（ほか内田洋行、伴走者参加）**
- **実施方法　オンライン**
- **テーマとねらい**
  - テーマ：やまがたAI部の取り組み紹介
  - ねらい：地域・産業界などの関係者を巻き込みながら取り組みを進めるプロセスの共有／事業終了後を見据えた体制づくりの視点の整理
  - ゲスト：やまがたAI部運営コンソーシアム副会長　佐藤俊一様
- **主な共有内容**
  - 高校生主体の取り組みの設計と推進（地域の課題を起点とした活動の組み立て）
  - 関係者の巻き込みと協働の進め方（ステークホルダーとの連携の実際）
  - 事業終了後を見据えた体制づくりの示唆（継続のための考え方の共有）
- **参加者の声**
  - 「教育指導要領の改訂は待っていられないと課外活動として展開、多くのステークホルダーを巻き込みながら素晴らしい活動になっている点は、事業終了後の体制を考える上で、ヒントになった」
- **次につながるポイント**
  - 関係者を巻き込みながら取り組みを進める際の論点の整理と、継続を見据えた体づくりの検討

お役立ち度：100%

勉強会に対する評価



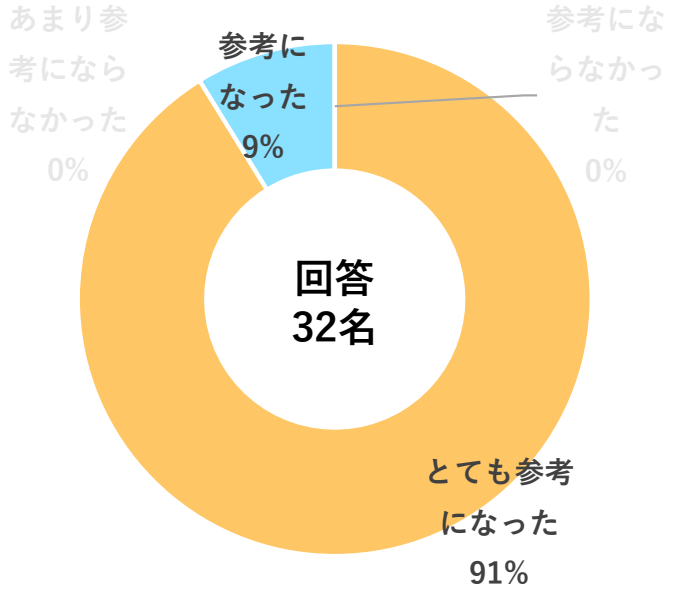
回答者内訳
教育委員会4は、学校5、企業2、その他1

4-2-5　勉強会（番外編）「伝わるプレゼンテーションの極意」

- **テーマ:「伝わるプレゼンテーションの極意」**
- **参加者：51名／参加地域：8都道府県（山形県、宮城県、新潟県、福井県、愛知県、長崎県、熊本県、宮崎県）**
- **参加者内訳：生徒31名、先生16名、管理機関4名**
- **実施方法　オンライン**
- **ねらいと講師**
  - ねらい：成果発表会に向けた発表力の強化／「結論・理由・具体例」による構成整理
  - 講師：（一社）プレゼンテーション協会 島根県アンバサダー　安平光一郎様
- **主な共有内容**
  - 伝える構成の型の共有（結論・理由・具体例の当てはめ）
  - 聞き手に伝わる要点整理（伝えたい要素の明確化）
  - 話の道筋の整理（論理展開の組み立て）
- **参加者の声（生徒）**
  - 「パワーポイント作成のコツを体系的に知り、参考になった」
  - 「原稿を見ないといけないと思い込んでいたが、練習で落ち着けると分かり安心材料になった」
- **参加者の声（先生・行政職員）**
  - 「授業では生徒が主役であることを再確認した」
  - 「結論・理由・具体例を当てはめることで、要点が明確になり話の道筋が整うのを実感した」
- **次につながるポイント**
  - 成果発表会などでの発信に向けた、伝え方の型の活用と準備の具体化

お役立ち度：100%

勉強会に対する評価



回答者内訳
生徒23件、先生9件

4-2-6　第5回勉強会「持続可能な協働体制に向けて教員の立場から」

■ **テーマ:「持続可能な協働体制に向けて」**

■ **参加者：40名／青森県、新潟県、埼玉県、福井県、静岡県、長崎県、熊本県（ほか内田洋行、伴走者参加）**

■ **実施方法　オンライン**

■ **ねらいとゲスト**

- ねらい：協働体制を継続するための論点整理／教員の立場から見た継続の工夫の共有
- ゲスト：福井県立坂井高等学校　永田先生／熊本県立八代工業高等学校　池田教頭先生

■ **主な共有内容**

- 協働体制の継続に向けた論点整理（役割分担、運営の工夫）
- 教員の立場からの継続の工夫の共有（現場での実装の視点）
- 属人化との向き合い方の整理（継続に向けた現実的な考え方）

■ **参加者の声**

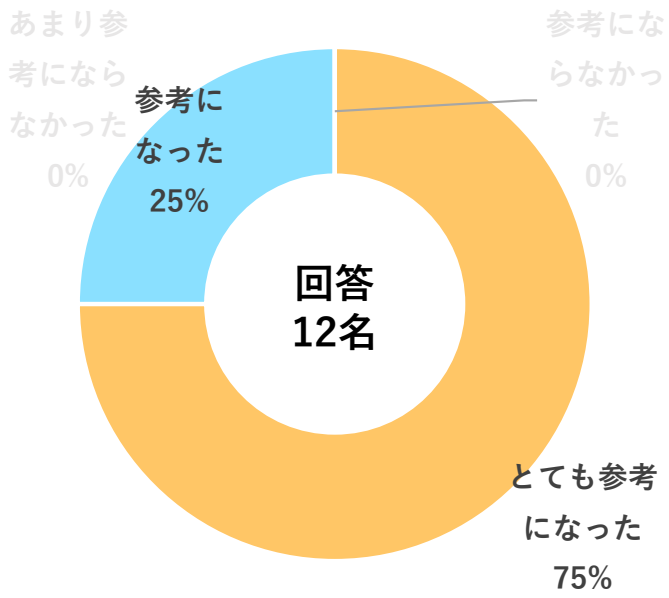
- 「業務の属人化をどうするかについて、ある程度仕方がない部分はあるものの楽しいと感じる（感じさせる）ことが大事が印象に残りました」

■ **次につながるポイント**

- 協働体制を継続するための役割分担と運営の工夫の整理

お役立ち度：100%

勉強会に対する評価



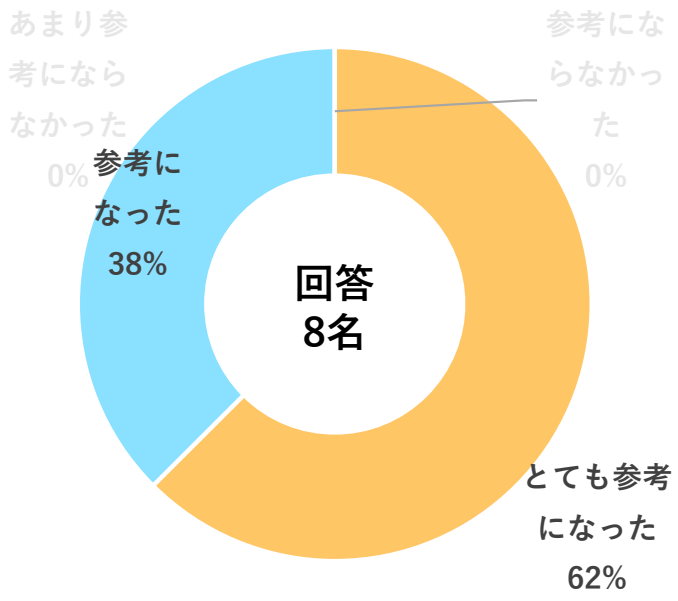
回答者内訳
教育委員会4は、学校6、その他2

4-2-7　第6回勉強会「製造業の人事部の方にいろいろ聞いてみよう」

- **テーマ:「製造業の人事部の方にいろいろ聞いてみよう：これからの産業人材とは」**
- **参加者：12名／青森県、埼玉県、静岡県、愛知県、長崎県、熊本県、宮崎県（ほか内田洋行、伴走者参加）**
- **実施方法　オンライン**
- **ねらいとゲスト**
  - テーマ：製造業の人事部の視点から、これからの産業人材像を考える
  - ねらい：産業界が求める人材像の具体化／キャリア教育の視点の拡張
  - ゲスト：NOK株式会社　人事部　三科貴寛様
- **主な共有内容**
  - 産業界が求める資質・人材像の具体化（現場で求められる要素の言語化）
  - 学校におけるキャリア教育の視点の整理（生徒が長期視点で将来を考える必要性）
  - 企業との対話に向けた論点の明確化（抽象語ではなく具体のイメージで捉える）
- **参加者の声**
  - 「人生１００年の中で高校時代はわずか３％」とおっしゃっていた言葉がとても印象に残りました。ＭＨＳに役立てることができるかは分かりませんが、生徒が人生を長い目で考えられるようなキャリア教育の必要性を感じました」（教育委員会関係者）
- **次につながるポイント**
  - 産業界の人材観を踏まえたキャリア教育の論点整理と、企業との対話に向けた準備

お役立ち度：100％

勉強会に対する評価



回答者内訳
教育委員会4、学校3、その他1

4-2-8　拡大勉強会「これからの人材観や生徒観について対話」

- **テーマ：「これからの人材観や生徒観について対話」**
- **参加者：23名／9地域（北海道、宮城、福井、長崎、山形、熊本、清和、仙台 など）**
- **実施方法　対面**
- **ねらい**
  - 産業界との協働体制をベースにしたカリキュラムの進化を見据え、学校や教員の教育観・生徒観（OS：思考の土台）のアップデートを対話を通じて進める
  - 現場で起きている課題を、背景にあるメンタルモデルの理解を通じて捉え直す
- **主な共有内容**
  - ワークショップ：妖怪を使った問題の外在化（図）
  - ケース学習：問題の背景にあるメンタルモデルの理解（図）
  - 対話：教育観・生徒観（OS）のアップデートに向けた論点の共有
- **次につながるポイント**
  - 教育観・生徒観（OS）のアップデートに向けた論点整理と、現場課題の捉え直しの継続

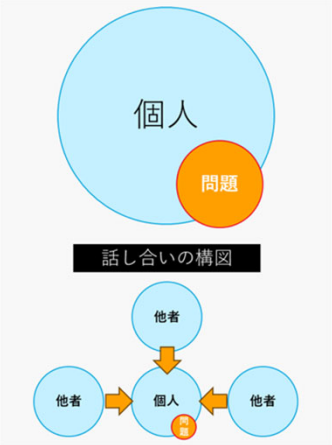
■ワークショップ
妖怪を使った問題の外在化

■ケース学習
問題の背景にあるメンタルモデルの理解

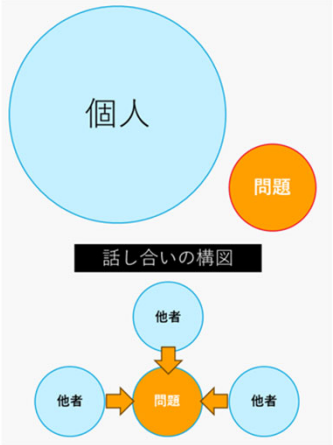
教育観が引き起こす問題の構造

問題の外在化・妖怪化してみよう	なぜ妖怪が発生するのかを探索しよう	妖怪が発生しないようにするには？
どんな妖怪がいるのか	妖怪発生要因（パターン）	妖怪発生要因の解消
	妖怪発生要因（構造）	
妖怪退治方法（対処療法）	妖怪発生要因（メンタルモデル）	

■対話
教育観・生徒観をアップデートする対話の枠組み



「なぜそうなったんだ」
「なんで、そうならないようにしなかったんだ」



「何がそうさせたのだろうか」
「問題の背景にはなにがあるのだろうか」

4-3　情報交換会・イベント／視察：実施概要一覧

■ 情報交換会と各地域のイベント／視察の実施概要を一覧で整理します。

■ 情報交換会（計3回）

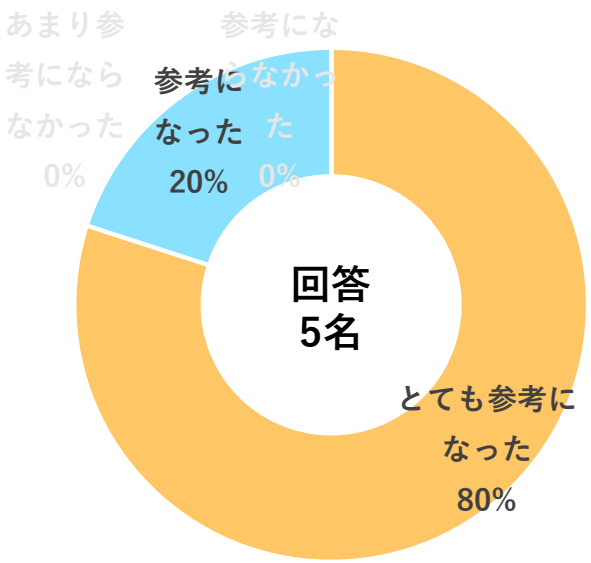
名称	開催日	内容概要	参加人数	役立ち度／回答数
5月情報交換会①（先進的取組型）	2025年5月21日	事例紹介、情報交換	計5名＋長崎県教委	とても参考になった4／参考になった1（回答数5）
5月情報交換会②（連携体制強化型）	2025年5月27日	事例紹介、情報交換	計20名	とても参考になった2／参考になった7（回答数9）
11月情報交換会	2025年11月26日	卒業生インタビュー、情報交換	—	—

■ 各地域のイベント／視察（案内）

地域	開催日	名称
北海道	2025年7月10日	専門高校魅力発見ミーティング
長崎県	2025年7月25日	ながさき産学官連携シンポジウム
宮城県	2025年11月14日	加美農コンソーシアム最先端農業EXPO
山形県	2025年12月4日	地域産学連携シンポジウム
宮崎県	2026年1月20日	宮崎農業高等学校マイスター・ハイスクール研究成果発表会
福井県（視察）	2026年1月23日	課題研究発表会、コンソーシアム会議
熊本県	2026年2月25日	マイスター・ハイスクール普及促進事業に係るシンポジウム及び情報・意見交換会

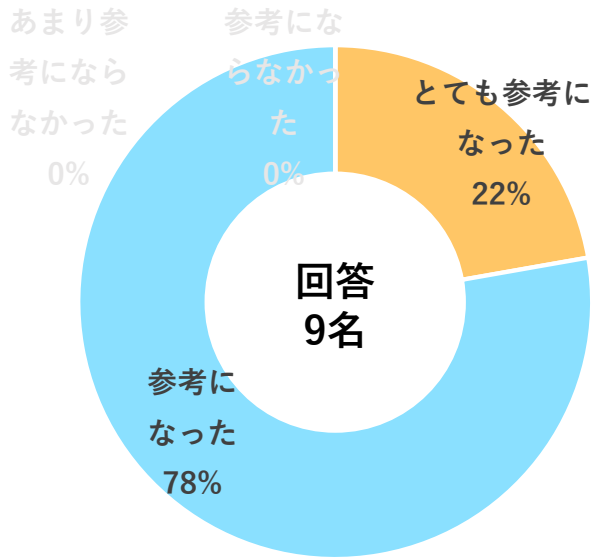
4-3-1　5月情報交換会 実施概要・アンケート結果

- ① 先進的取組型情報交換会
- 実施日：5月21日　オンライン開催
- 参加者：北海道、新潟県、福井県、熊本県、長崎県（オブザーバー）、内田洋行教育総合研究所
- 参加人数：計5名＋長崎県教委
- トークテーマ：事例紹介、情報交換
- ねらい：先進的取組型の取り組みの共有／普及に向けた論点の整理



回答者内訳 教育委員会4、企業1

- ② 連携体制強化型情報交換会
- 実施日：5月27日　オンライン開催
- 参加者：山形県、宮城県、愛知県、長崎県、宮崎県、内田洋行教育総合研究所
- 参加人数：計20名
- トークテーマ：事例紹介、情報交換
- ねらい：連携体制強化型の取り組みの共有／体制構築プロセスの論点整理



回答者内訳 教育委員会5、学校3、企業1

4-3-2　① 先進的取組型情報交換会　共有・確認事項（要約）

■ 1. 管理機関は何を普及するのか

地域	普及の対象（何を普及するのか）	補足ポイント
熊本県	熊本県版マイスター・ハイスクールの「理念」	産学官連携を前提にした共通ビジョン・対等な対話・人材育成が軸。理念の明文化により、他校・他学科への展開を志向。
福井県	「エコシステム」構築のノウハウと価値	拠点校で形成された産学連携の体制（会議体、生態系）を他校へ横展開。生態系は「体験しないと伝わらない」とし、参加機会を重視。
北海道	「視点」や「出会い」から生まれる気づき	理念や構造よりも、拠点校での好事例や連携の「触発」を通じての緩やかな普及を志向。特定のモデルより「広がり」や「出会い」を重視。
新潟県	地域融合型の共同実践モデルと理念	水産×農業の融合モデルを起点に、地域課題と結びついた実践を共同で行う。理念として「実社会で生きる力」を育む人材育成を掲げる。
長崎県	学びのための「対話型エコシステム」	従来の人材確保から人材育成への転換。対話を通じた「壁のない連携」を重視。

■ 2. 令和8年度以降に必要な体制・協力

地域	体制・協力における課題と方向性
熊本県	全県展開のために「共通プラットフォーム」が必要。理念を共有するための教員研修・経営者研修を検討。基礎自治体も巻き込む必要あり。
福井県	専門高校と産業界を結ぶハブ的役割が重要。現在は指導主事が担うが、将来的に県内体制に組み込む必要がある。
北海道	連携体制をKPI（数値目標）として明確化。教員の異動後も連携が維持されるよう、各校に学校単位の連携体制づくりを促す。
新潟県	地理的な分断（県南北）を超えたモデルの普及が課題。理念は県が全体に浸透させる役割を担う。
長崎県	コーディネート機能を行政・部局に配置し、学校の相談を受けられる体制に。各分野別のコンソーシアムに自治体・産業界を組み込む。

■ 3. 部局・産業界からの関与と当事者性において大切なこと

ポイント	内容
部局（行政）の役割は「つなぎ手」	長崎では学校と産業界を結ぶ「窓口」として行政が動く。教育委員会が「仕組みを育てる側」としてリード。
産業界の巻き込みは「対話」と「理解」から	熊本では金融機関（肥後銀行）も巻き込み済み。福井では学校の困り感を理解する経済団体メンバーが事業推進に関与。
地域性・産業特性に応じた参画の工夫	北海道では産業界ごとに対応する会議体が存在。広域ゆえに地域別カテゴリに分けた連携強化。
協力は「お願い」ではなく「共創」の関係へ	長崎では「人材確保」から「人材育成」へ。学校・行政・産業界の「壁」をなくすことで、真の協働体制を目指す。

4-3-3　11月情報交換会　「MHS卒業生へのインタビュー＆情報交換会」

- **テーマ：「MHS卒業生中田さんへインタビュー＆情報交換会」**
- **開催日：11月26日**
- **参加者：管理機関およびコーディネーター**
- **テーマとねらい**
  - テーマ：卒業生の経験の共有と管理機関間の情報交換
  - ねらい：当事者視点（卒業生）の学びを共有し、各地域の取り組みの論点整理につなげる
  - ゲスト：九州デジタルソリューションズ勤務／熊本県立八代工業高等学校卒業生　中田さん
- **主な共有内容**
  - 卒業生インタビュー：中田さんの経験を通じた学びの共有
  - 情報交換：参加者間での情報共有と意見交換（後半パート）
- **次につながるポイント**
  - 卒業生の視点を踏まえた論点共有の継続

情報交換会がオンラインで開催されました。今回は熊本県立八代工業高校の卒業生でもある、九州デジタルソリューションズ勤務の中田さんをゲストにお迎えし、前半は中田さんへのインタビュータイム、後半は各参加者の情報交換の時間を取る形となりました。

4-4　相互学習を支える情報発信：ポータルサイト

■ **勉強会や情報交換会などの内容を継続的に共有するため、ポータルサイトで情報発信と周知を行いました。**

- 関係者が参照できる情報共有の場として運用
- ツールや勉強会動画の共有を実施毎月記事を更新、関係各所にメールにて配信してお知らせ

■ **月あたりの閲覧者数：平均100人程度**

第5章　成果発表会・広報活動の成果

成果発表会の実施概要とアンケート結果を通じて、事業成果の可視化と普及に向けた情報発信の状況を整理しました。

5-1　成果発表会の実施概要

- 実施日：令和8年1月30日（金）
- 時間：10:00～17:00
- 会場：ビジョンセンター田町（6階）
- 実施形態：対面実施、オンライン配信
  文部科学省HPで動画公開予定
- 参加対象：研究指定校・管理機関、普及促進事業の実施校・管理機関、ネットワーク構築にかかる支援および調査研究事業の担当者、企画評価会議委員（講評など）
- 参加人数：
  対面126人（文部科学省、企画評価会議委員含む）／
  オンライン154人（最大同時接続数）※事前申込271人
- 開催目的：
  - 取り組み内容、成果、課題、今後の展望の可視化
  - 講評を踏まえた学びの整理と、次の改善に向けた観点の獲得
  - 分科会での協議・情報交換を通じた、共通課題の論点の深掘り
  - 事業成果の発信を通じた普及の促進

5-2　成果発表会の当日の流れ

- **10:00–10:05　開会あいさつ**
- **10:05–10:45　パネルディスカッション**
  - 高等学校卒業生によるパネルディスカッション
  - 登壇：牧野光朗（企画評価会議主査）／福山寛朋／秦千遥／中田桃愛
  - 司会進行：廣田
- **10:45–11:05　調査研究事業報告**
- **11:25–12:00　事業成果発表（前半）（11:45–12:00 講評）**
  - 熊本県（農業・工業・商業・福祉）／山形県（県内全校）／愛知県（福祉）／宮崎県（農業）／静岡県（工業）
- **12:05–13:05　休憩**
- **13:05–13:40　事業成果発表（後半①）（13:25–13:40 講評）**
  - 福井県（工業・農業・商業・家庭）／長崎県（県内全校）／三重県（福祉）／宮城県（農業）／兵庫県（工業）
- **13:45–14:20　事業成果発表（後半②）（14:05–14:20 講評）**
  - 新潟県（水産・農業）／北海道（農業・工業・商業・水産）／学校法人一川学園 清和学園高等学校（工業・家庭）／仙台市立仙台工業高等学校（工業）
- **14:35–16:20　分科会（4テーマ）**
  - テーマ①：産学連携カリキュラムマネジメント
  - テーマ②：産学連携コーディネーターの効果的な活用
  - テーマ③：産学共通ビジョンのつくり方・使い方
  - テーマ④：協働体制の自律的な運営
- **16:35–16:55　分科会共有**
- **17:00　閉会の挨拶**

5-3　アンケートの母集団整理（回答者区分）

■ **本章のアンケート結果は、回答者区分ごとに整理します。**

■ **回答者区分**

- 事業関係者：成果発表会および分科会に参加可能な関係者
- 分科会出席者：事業関係者のうち、現地参加して分科会に出席した参加者
- 一般参加者：事業関係者以外（分科会には参加していない参加者）
- 全体：事業関係者と一般参加者のすべての参加者

■ **5章の各節と母集団（整理）**

節番号	スライドタイトル	母集団
5-4	事業関係者アンケート（全体：成果発表会＋分科会）	事業関係者
5-5	事業関係者アンケート（成果発表会：評価理由）	事業関係者
5-6	分科会アンケート（満足度：現地参加の事業関係者）	分科会出席者（事業関係者・現地参加）
5-7	分科会アンケート（評価理由：事業関係者）	事業関係者
5-8	分科会出席者の関心（興味関心がある学校/興味関心・質問）	分科会出席者（事業関係者・現地参加）
5-9	一般参加者アンケート（属性・認知度・関心度）	一般参加者
5-10	一般参加者アンケート（設問結果）	一般参加者
5-11	全体アンケート結果（全参加者）	全体

5-4　事業関係者アンケート結果（全体：成果発表会＋分科会）

■ **事業関係者アンケート：**

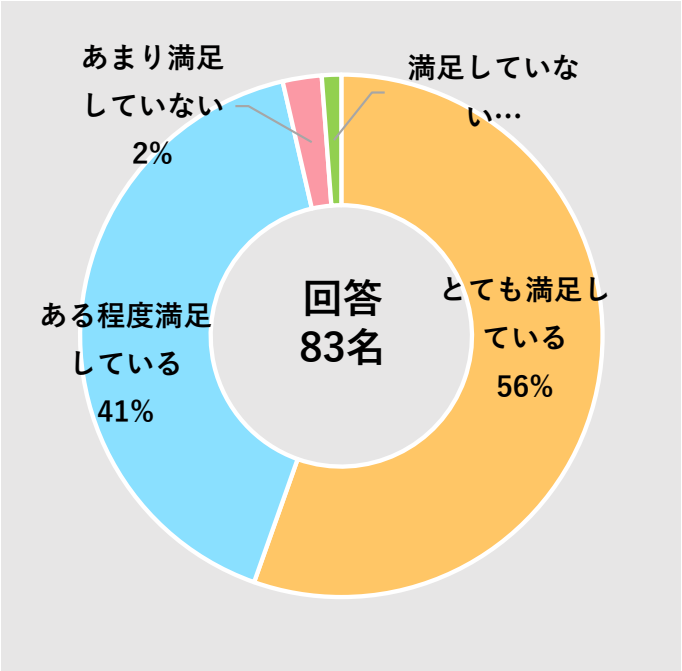
- 回答83人

■ **満足度（事業関係者）：**

- **とても満足している：46人（55%）**
- **ある程度満足している：34人（41%）**
- **あまり満足していない：2人（2%）**
- **満足していない：1人（1%）**

■ **回答者属性（事業関係者）：**

- 学校45人（54%）／教委25人（30%）／企業6人（7%）／自治体3人（4%）／コーディネーター2人（2%）／調査機関1人（1%）／大学教授1人（1%）



■ **考察**

✓ **満足度は総じて高水準**

- 「とても満足」「ある程度満足」が大半を占めており、成果発表会が「事業成果の可視化」と「普及に向けた発信」の場として一定の役割を果たしたといえます。

✓ **参加者の中心が学校・教育委員会である点が示唆的**

- 回答者の多数が学校と教育委員会であることから、成果発表会は現場・管理機関の双方にとって、取り組みの整理や学びの獲得の機会として機能したと考えられます。

✓ **オンライン参加も一定規模で確保**

- 対面に加えてオンライン視聴が成立しているため、会場参加が難しい関係者にも情報が届く設計になっています。今後の普及を考える上でも、発信手段としての有効性が確認できます。

5-5　事業関係者アンケート（第1部「事業成果発表」：評価理由の要約）

■ **対象**

- 第1部「事業成果発表」
  （卒業生パネルディスカッションを含む）

■ **代表的なコメント（要点）**

✓ **とても満足している**

- 他地域の取り組み事例が分かり、
  今後の取り組みに生かすきっかけになった
- 卒業生パネルの発信が参考になり、
  学びになった
- 講評が具体的で、次の改善に向けた観点が得られた
- 発表内容が整理されており、理解しやすかった

✓ **ある程度満足している**

- 発表内容は参考になったが、質疑応答の時間をもう少し確保してほしい
- 他会場の発表も聞ける工夫があるとよい
- 時間配分を見直すと、より落ち着いて共有できる
- オンライン視聴の導線や案内が、より分かりやすいとよい

✓ **あまり満足していない**

- 音声が聞こえないなど、オンライン視聴で支障があった
- 時間配分や運営面で改善の余地があると感じた

■ **コメント分類（概算）**

① 他県事例・他校事例が参考になった	22%
② 卒業生パネルが良かった	15%
③ 今後の方向性・自校改善に活用できた	14%
④ 質疑応答時間が不足していた	10%
⑤ 発表時間・時間配分に改善余地がある	8%
⑥ 運営は概ねスムーズだった	8%
⑦ 機器・ネットワークトラブルがあった	7%
⑧ 他会場の発表も聞きたかった	7%
⑨ 成果発表の構成・講評が良かった	5%
⑩ 事業の構造・制度面への示唆があった	4%

5-6　分科会アンケート結果（対象：分科会出席の事業関係者）

■ **事業関係者アンケート：**

- 回答49人

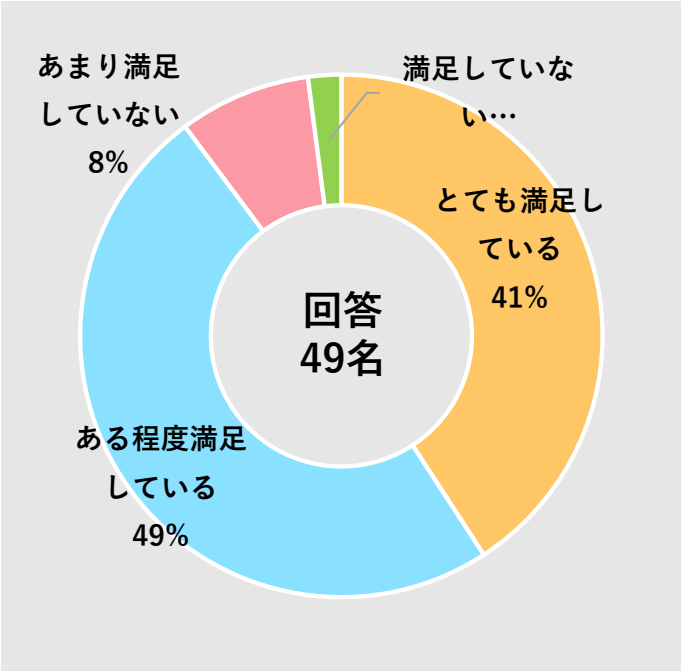
■ **分科会満足度（全体）：**

- **とても満足している：20人（41%）**
- **ある程度満足している：24人（49%）**
- **あまり満足していない：4人（8%）**
- **満足していない：1人（2%）**

■ **考察**

✓ **分科会は“論点の深掘り”として概ね機能**

- 満足度は高水準で、成果発表会の「全体共有」に対して、分科会が「テーマ別の整理・議論」の役割を果たしたと読み取れます。



✓ **分科会ごとのテーマと満足度（人数）**

- **分科会①テーマ：産学連携カリキュラムマネジメント**→とても満足8／ある程度満足7／あまり満足していない1
- **分科会②テーマ：産学連携コーディネーターの効果的な活用**→とても満足4／ある程度満足4
- **分科会③テーマ：産学共通ビジョンのつくり方・使い方**→とても満足5／ある程度満足6／あまり満足していない1
- **分科会④テーマ：協働体制の自律的な運営**→とても満足7／ある程度満足3／あまり満足していない2／満足していない1

→　テーマごとに詳細については、第6章共通課題の整理にて記述いたします。

5-7　分科会評価理由：フリーワード要約（対象：分科会出席の事業関係者）

分科会	回答区分	代表コメント（要旨）2～3件
分科会① 産学連携カリキュラムマネジメント	とても満足している	「様々な情報を得られたことです。」 「他県の先生方とコミュニケーションが取れてとても良かったです。」 「他グループの方々との意見を多く聞く機会があり、大変勉強になりました。」
	ある程度満足している	「事後ワークについては、要項に記載した方が良いと思います。」 「グルーピングに配慮されていて良かった。」 「一方で、3月まで宿題を作成するのは…難しいと感じた。」
	あまり満足していない	「突然、第二回の研修会及び課題について伝えられ、困惑している。」 「次回のオンラインの時期は人事異動の時期で参加し難しいと思う。」
分科会② 産学連携コーディネーターの効果的な活用	とても満足している	「楽しく学べたから」 「ワークショップで考える場面が多く、有意義な時間となりました。」 「自走化に向けて頭の整理ができ、良い情報やアドバイスが得られた。」
	ある程度満足している	「分科会の時間に対して内容を詰めすぎていると感じた。」 「進行の時間があまりにもタイトで、ゆとりがなく感じた。」 「コーディネーター同士の情報交換時間がもっと欲しい。」
分科会③ 産学共通ビジョンのつくり方・使い方	とても満足している	「伴走者の方の手掛けたコンソーシアムの実践発表が素晴らしく…理解を広げることができた。」 「産学連携ビジョンは重要で、認識が深まった。」
	ある程度満足している	「分からないことを知ることができた。時間が足りなかった。」 「どの学校もどの地域も同じような悩みでアドバイスをいただけることはなかった。」 「もう少し時間を確保してじっくり聴講したい内容だった。」
	あまり満足していない	「必要性と言われると、色々な考えがまとまらない部分がある。」
	満足していない	「ビジョンを策定するだけで非常に労力を要する印象を受け、必要性を感じることができなかった。」
分科会④ 協働体制の自律的な運営	とても満足している	「とても話しやすく、様々な立場の方々からアドバイスをいただくことができました。」 「日頃、単独で議論することの無い話題を他校の教員や教育委員会のメンバーと意見交換できた。」 「事業担当の先生方と情報交換することができ、情報共有することができた。」
	ある程度満足している	「もう少し広く聞く時間が欲しかった」 「チェックリストなどを検討いただけたため。」 「ワールドカフェ方式で様々な意見を集約し、アイディアを共有できたため。」
	あまり満足していない	「想定を超えるような有益な情報などの共有がなかった」

5-8 事業関係者に対する個別アンケート内容（対象：分科会出席の事業関係者）

■ 成果発表会を聴講して、興味関心をもった学校・管理機関

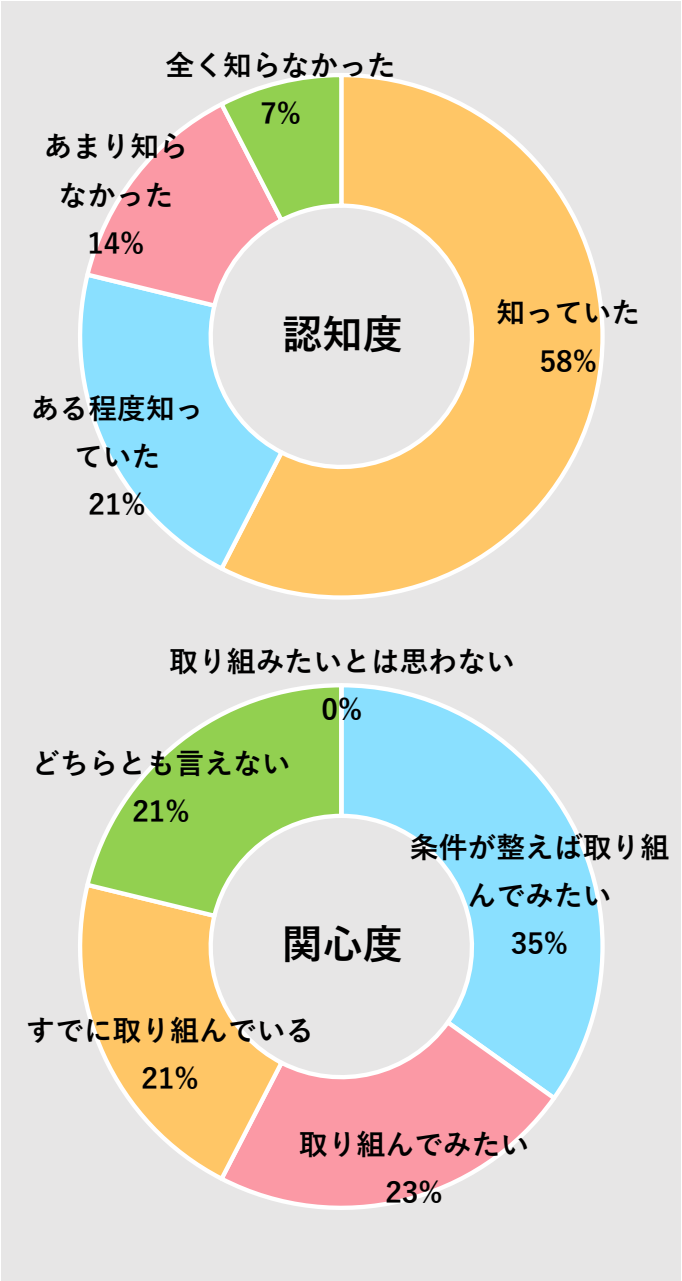
興味を持った学校・管理機関名	具体的なテーマとそのコメント
愛知県立古知野高等学校	福祉分野の産学連携・学習設計：AIの活用を含む認知機能や計算力だけに偏らない育成の工夫を具体に知りたい
長崎県、熊本県、福井県	県域モデル・普及の進め方：県域での普及設計、コンソーシアムの創設を知りたい
長崎県教育委員会	管理機関間の情報交換（次期施策視点）：管理機関同士で次期施策に向けた情報交換を行いたい
仙台市立仙台工業高等学校	コーディネーター活用・配置の実務／伴走支援の今後（運営側への期待）：コーディネーター派遣・連携の実務を聞きたい／今後の伴走支援の在り方を確認したい
北海道別海農業高等学校	視察先としての注目事例：視察した地域の学校の取り組みを深掘りしたい
内田洋行（調査研究事業）	調査研究の知見の活用：調査研究の資料が欲しい／オンラインで話を聞きたい

■ 成果発表会・分科会をに対する興味関心をや質問

区分	主な質問・関心	代表例
他地域の事例の深掘り	他県の取り組みの「具体」	他県で成果が出た背景／学校内での広げ方／産業界の関与の取付方
普及・横展開の設計	県内・他地域へ広げる手順や条件	どこから着手したか／合意形成の順序／普及の担い手の設計
産業界の巻き込み	企業側のメリット設計、関与の継続方法	企業の関与が続く条件／役割分担の整理／共創の関係づくり
コーディネーター活用	配置・育成・役割の線引き	担うべき役割の範囲／学校・管理機関との関係／育成の進め方
目標・評価・PDCA	KPI、評価の観点、運用の仕方	何をどう測るか／評価を改善にどうつなげるか／学校内での共有
ビジョン・合意形成	共通ビジョンをどう作り、どう使うか	合意形成の具体手順／対話の設計／ビジョンの運用と定着
学校内浸透・人材育成	校内の巻き込み、教員の意識合わせの方法	校内研修の組み立て／管理職の関与／担当者の属人化への対応
分野別の関心	特定分野（例：福祉、工業、水産など）のカリキュラムや連携内容	分野特性に合わせた連携／実習・探究の設計／地域課題との接続

5-9　一般参加者アンケート（属性・認知度・関心度）

- **対象：一般参加者（事業関係者以外）**
- **回答数：66人**
- **参加者属性（事業関係者以外）**
  - 学校：38人（57%）
  - 教委：18人（27%）
  - 企業など：7人（10%）
  - 基礎自治体：1人
  - 調査機関：1人
  - 大学院生：1人
- **マイスター・ハイスクール事業の認知度**
  - 知っていた：38人（57%）
  - ある程度知っていた：14人（21%）
  - あまり知らなかった：9人（13%）
  - 全く知らなかった：5人（7%）
- **マイスター・ハイスクール事業の趣旨への関心度**
  - すでに取り組んでいる：14人（21%）
  - 予算や連携機関など条件が整えば取り組んでみたい：23人（34%）
  - 取り組んでみたい：15人（22%）
  - 取り組みたくないとは思わない：0人（0%）
  - どちらとも言えない：14人（21%）



5-10　一般参加者アンケート（設問結果）

■ 産学連携を通じた人材育成に取り組むにあたっての現在の課題（カテゴリ別：概算）

①人材不足・教職員負担	30%
②コーディネーター不在	18%
③企業とのネットワーク不足	15%
④予算・コスト課題	15%
⑤時間確保・スケジュール調整	12%
⑥カリキュラム・教育課程上の課題	10%
⑦設備・ハード面の課題	8%
⑧校内体制・合意形成	8%
⑨産業界との認識ギャップ	7%
⑩生徒の意識・継続性課題	7%

■ 取り組んでみたい内容（自由記述の要点）

- 地域の企業や団体との協働の拡大
- 実践的・体験的な学び（探究、PBL、実習など）の設計と実装
- インターンシップなど現場接続の強化（長期型を含む）
- 学科横断・学校間連携を通じた展開（複数校での連携、学びの共有）
- 産業人材育成コンソーシアムなど協働体制の構築・運営
- 商業高校などでのビジネス人材育成（会計、マーケティング、マネジメント、情報など）

5-11　一般参加者アンケート（自由記述：取り組んでみたい内容の具体例）

■ **地域の企業・団体との協働**

- 地域企業と共同で課題解決型の探究を設計し、授業や実習に組み込む
- 企業側の協力を得ながら、継続的な連携の枠組みをつくる

■ **実践的・体験的な学びの設計**

- PBL※や探究を通じて、実社会の課題に取り組む学習機会を増やす
- 学科横断で学びをつなぎ、成果を共有する仕組みをつくる

■ **インターンシップなど現場接続の強化**

- 長期型インターンシップなど、現場経験を通じた学びを充実させる
- ミスマッチを防ぐための事前学習や連携先との調整を整える

■ **協働体制（コンソーシアムなど）の構築・運営**

- 学校・産業界・地域が継続的に協議できる体制を整え、合意形成を進める
- 協働体制の運営に必要な役割分担や、会議体の設計を検討する

■ **商業高校などにおける人材育成の具体**

- 会計・マーケティング・情報などを組み合わせ、実務に近い学びを設計する
- 地域の事業者と連携し、商品開発や販売などの実践機会をつくる

- **Project-Based Learning（プロジェクト型学習）：**
  ある課題やテーマに対して、調査→企画→制作→発表などの「プロジェクト」を進めながら学ぶ学習法。
- **Problem-Based Learning（問題基盤型学習）：**
  具体的な「問題（ケース）」から出発して、仮説→調査→解決策の検討を通じて学ぶ学習法。

5-12　一般参加者アンケート（設問結果）

■　全体についてのご意見（カテゴリ別：概算）

① 全体的に高評価・満足	35%
② 他校事例が参考になった	18%
③ 今後への期待・ネクスト事業	8%
④ 卒業生パネルが良かった	7%
⑤ 政策・国の方向性への要望	6%
⑥ 事業の継続性・体制課題	6%
⑦ オンライン運営・技術面	6%
⑧ プログラム構成・時間配分	5%
⑨ 成果の可視化・共有方法	5%
⑩ 成功例偏重への懸念	4%

■　代表的な意見（要点）

✓ **運営・プログラムに関する意見**

- 質疑応答の時間確保、会場間の回遊など、時間配分・進行設計の改善要望
- 音声などオンライン運営面の改善要望
- 事前資料の共有方法や閲覧導線に関する改善要望

✓ **普及・継続に関する示唆**

- 他地域の取り組み共有が有益で、今後の取り組みに生かせる示唆が得られた
- 卒業生パネルの発信が気づきにつながり、学びの整理に役立った
- 成果の教材化や、アンケート結果の還元など、可視化・共有の工夫への要望
- 事業の継続性を担保する体制づくり（管理機関の役割など）に関する示唆
- 成功例だけでなく、課題やうまくいかなかった点も含めた共有の要望

✓ **政策・次期事業への要望**

- ネクスト事業への期待、方向性の提示に関する要望
- 国の方針や各地域への配分・進め方に関する質問・要望

第6章　共通課題の整理

令和6年度～令和7年度のネットワーク構築支援を通じて提起された共通課題を、普及と自走化を進める上での論点として整理しました。あわせて、事業関係者との議論を通じて得られた示唆を整理しました。

6-1　共通課題の位置づけ（4テーマ）

- 令和6年度～令和7年度のネットワーク構築支援を通じて提起された共通課題を、普及と自走化を進める上での論点として「地域産業と専門高校が共創する持続可能なエコシステム」の要素に沿って4テーマに整理しました。
- 本報告書における「エコシステム」とは、「対話の場づくり・協働体制の土台」を起点に、「学校現場の実践」と「連携と実践のハブ」を通じて「対等な関係での自走運営」へ至るフェーズの流れとして整理しました。

【地域産業と専門高校が共創する持続可能なエコシステム】

4. 協働体制の自律運営

【対等な関係での自走運営】

共通ビジョンと産学連携コーディネーターの活動を
通じて構築された協働関係が、
「自律的に回る仕組み」として定着する

仕組み化

定着

2. 産学連携カリキュラムマネジメント

【学校現場の実践】

共通ビジョンで描いた「育てたい人材像」を
教育課程に落とし込み、
企業との連携を通じで実践的な学びを設計・実施

3. 産学連携コーディネーターの効果的な活用

【連携と実践のハブ】

共通ビジョンを具現化する推進役として、
学校・企業・自治体などの関係者をつなぎ、
ビジョンと現場の行動を橋渡しする

橋渡し

学びの循環

1. 産学共通ビジョンのつくり方・使い方

【対話の場づくり・協働体制の土台】

関係者間で「なぜ産学連携に取り組むのか」
「どのような人材を育てたいか」を共有し、
方向性と価値観を一致させる

6-2-1　共通課題１「産学共通ビジョンのつくり方・使い方」

関係者間の方向性と価値観をそろえ、産学連携を前に進める上での起点となる「産学共通ビジョンのつくり方・使い方」の論点を示します。

■ **エコサイクルのフェーズ**

- 【対話の場づくり・協働体制の土台】

■ **フェーズの目的**

- 関係者間で「なぜ産学連携に取り組むのか」「どのような人材を育てたいか」を共有することで、方向性と価値観を一致させる

■ **共通課題として論点**

- 産学共通ビジョンの目的の明確化（協働の方向性・価値観の一致）
- つくり方の手順整理（準備→対話→言語化→発信）
- 使い方の設計（現場の取り組みへの落とし込み、更新・浸透）

■ **分科会での事業関係者との議論から見えた示唆**

- 事業関係者間で、ビジョン策定の前提（参加者、対話の設計、言語化の粒度）をそろえる必要性が共有されました。
- 「策定」だけでなく、「運用・浸透」までを含めて設計しないと現場で形骸化しやすい点が論点として整理されました。
- 各実施機関の状況差を踏まえ、まず共有すべき要素（共通言語、合意の取り方、見直しのタイミング）が明確になりました。

6-2-2　共通課題１「産学共通ビジョンのつくり方・使い方」｜３つのステップ

ビジョンをつくるための3つのステップ

やること

準備フェーズ

☑コアチームを立ち上げる
☑目的を共有し関係者を招集する
☑情報収集・リサーチを行う

↓↑

作成フェーズ

☑関係者が対話する場を設計する
☑対話の成果を集約し言語化する
☑学校内外へ向けて発信する

↓↑

浸透フェーズ

☑評価方法と浸透を定義する
☑定期的な対話と振り返りを行う
☑ビジョン・体制を更新を図る

※順番は目安、現場の状況や進捗に応じて行き来する

6-3-1　共通課題２「産学連携カリキュラムマネジメント」

育てたい人材像を学校現場の実践に落とし込み、産学連携を継続的に改善していくための「産学連携カリキュラムマネジメント」の論点を示します。

■ **エコサイクルのフェーズ**

- 【学校現場の実践】

■ **フェーズの目的（テーマの目的）**

- 共通ビジョンで描いた「育てたい人材像」を教育課程に落とし込み、企業との連携で実践的な学びを設計・実施する

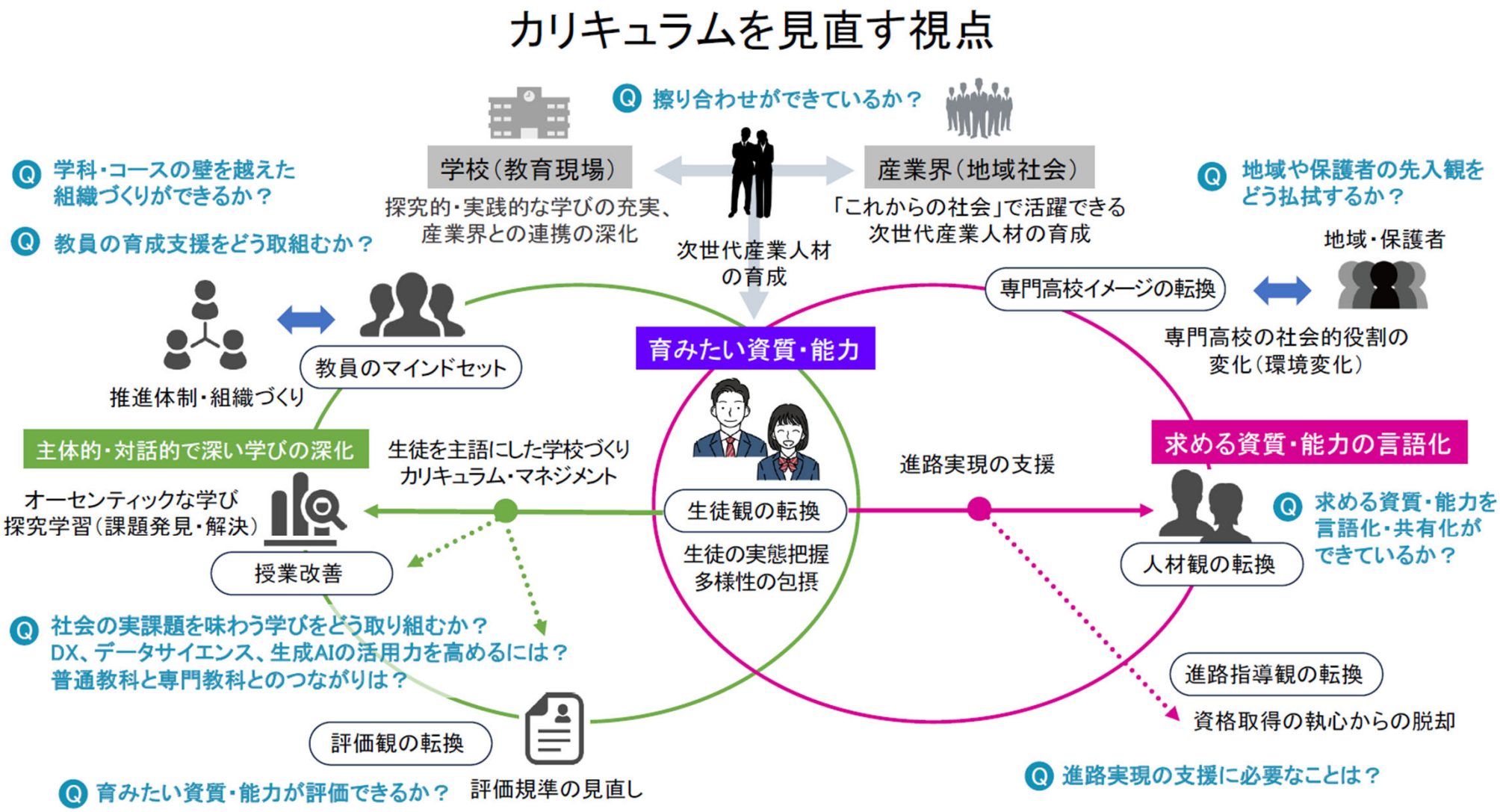
■ **共通課題の論点**

- 育てたい資質・能力の言語化と、教育課程への組み込み（科目・探究・実習の接続）
- 生徒の実態把握と多様性の包摂を前提にした学びの設計
- オーセンティックな学び(実社会の課題に根ざした学び)の設計（課題発見・解決、探究の質の向上）
- 評価観・評価規準の見直し（育てたい資質・能力を評価につなげる）
- 校内体制・組織づくり（学科・コースの壁を越えた推進、教員の育成支援）

■ **分科会での事業関係者との議論から見えた示唆**

- 学校内で「学科横断」「校内共有」を進めるための推進体制と、教員のマインドセットの整理が重要な論点として共有されました。
- 探究や実習を「実施している」だけでなく、育てたい資質・能力と評価のつながりまで含めて設計する必要性が明確になりました。
- 地域・産業界との連携を前提に、学校の実践をどう深め、どう更新していくか（授業改善、評価の見直し、実践知の蓄積）が論点として整理されました。

6-3-2　共通課題２「産学連携カリキュラムマネジメント」｜見直す視点



6-4-1　共通課題３「産学連携コーディネーターの効果的な活用」

関係者をつなぎ、共通ビジョンと学校現場の実践を橋渡しする上での共通課題を整理し、産学連携コーディネーターが果たすべき役割と運用上の論点を示します。

■ **エコサイクルのフェーズ**

- 【連携と実践のハブ】

■ **フェーズの目的（テーマの目的）**

- 共通ビジョンを具現化する推進役として、学校・企業・自治体などの関係者をつなぎ、ビジョンと現場の行動を橋渡しする

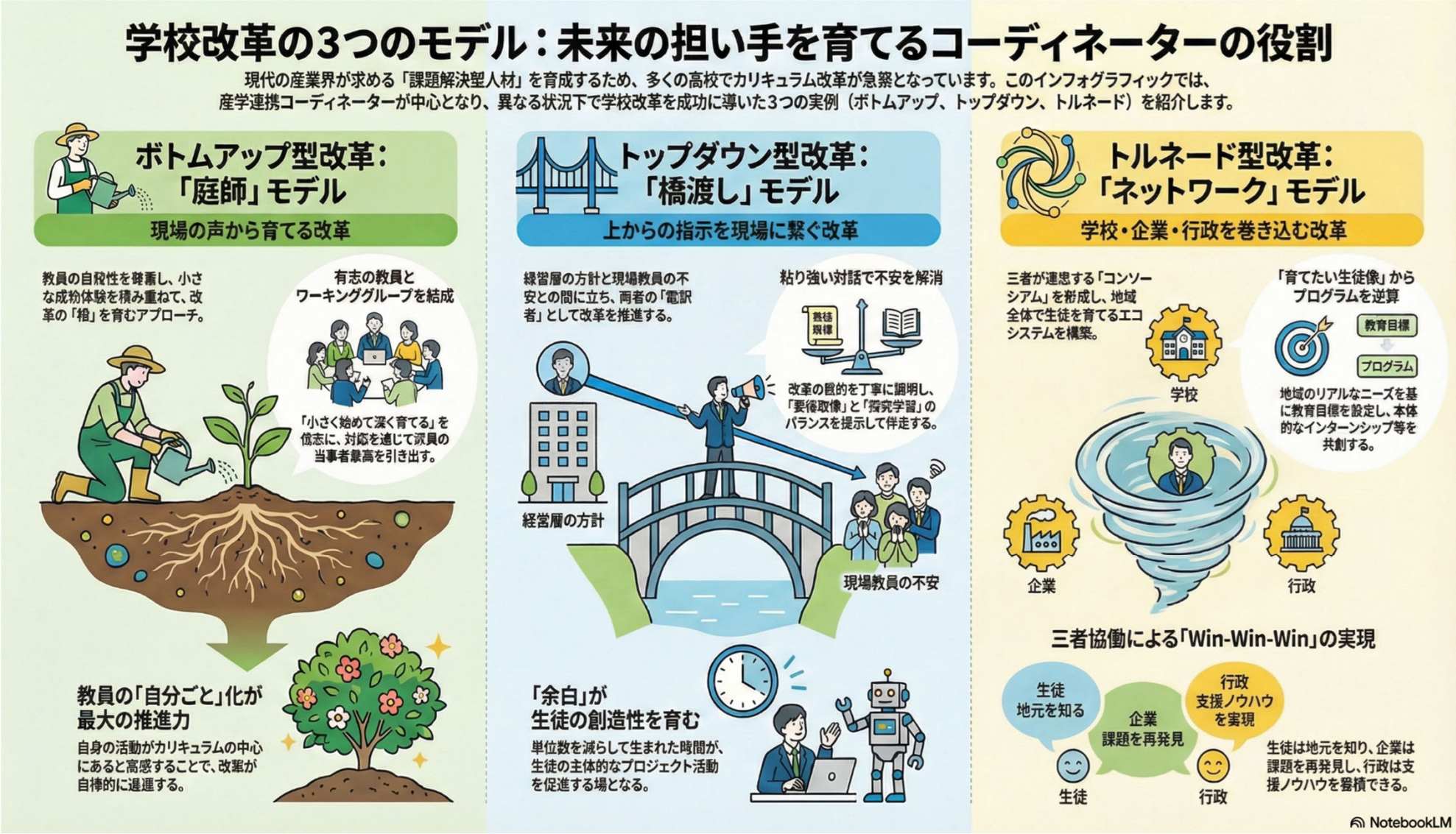
■ **共通課題の論点**

- 状況に応じた役割の使い分け（現場起点／方針の実装／協働体制の推進）
- 校内外の推進体制との連動（管理職・ミドルリーダー・担当者、ワーキングチーム）
- 関係者の巻き込みと合意形成（対話の設計、論点の整理、役割分担の明確化）
- 属人化の回避と継続性の確保（体制化、引き継ぎ、継続のための運用）
- 連携の質の担保（実践につながる関係設計とフォロー）

■ **分科会での事業関係者との議論から見えた示唆**

- 産学連携コーディネーターの役割は、状況に応じて重点が変わることが共有されました。
- 特に、現場を動かす場面ではミドルリーダーやワーキングチームとの連動が鍵になる点が整理されました。
- こうした役割の違いを整理するため、次頁で「学校改革の3モデル」として役割を整理します。

6-4-2　共通課題３「産学連携コーディネーターの効果的な活用」｜役割



管理職と現場の先生を繋ぐミドルリーダーが鍵

ワーキングチームに信用貯金の多い先生が入ってくれるかが鍵

コンソーシアムのワーキングチームに学校と地域のキーパーソンが入っていることが鍵

6-5-1　共通課題4「協働体制の自律的な運営」

協働関係を一過性で終わらせず、関係者が対等な立場で自律的に回る仕組みとして定着させるための共通課題の論点を示します。

■ **エコサイクルのフェーズ**

- 【対等な関係での自走運営】

■ **フェーズの目的（テーマの目的）**

- 共通ビジョンと産学連携コーディネーターの活動を通じて構築された協働関係が「自律的に回る仕組み」として定着する

■ **共通課題の論点**

- 協働体制の「熱源」（推進役・参画者）を維持し、属人化と疲弊を防ぐ運用
- 共通ビジョンの明文化と共有（関係者間での目的・方向性の一致）
- 産業界などとの関係を「依頼」ではなく協働へ転換する設計
- 会議体・対話の場を、意思決定と改善につながる形で運用すること
- 指標と振り返りの仕組み（PDCA）を継続的に回すこと

■ **分科会での事業関係者との議論から見えた示唆**

- 協働体制の状態は「活動量」だけでなく、推進の熱源、方向性、関係性、対話と改善の仕組みといった複数の要素で捉える必要が共有されました。
- 自律運営に向けては、現状の状態を点検し、停滞の兆しを早期に把握して改善につなげる視点が重要だと整理されました。
- 次頁では、分科会参加者によるセルフチェックの結果（チェック数）をもとに、協働体制の状態を整理します。

6-5-2　共通課題４「協働体制の自律的な運営」

■　**「健全性ネガティブ・チェックシート」verβを用いて、分科会出席者によるセルフチェックを実施しました。**

- （　）内の数値は、分科会出席者によるチェック数です。
- チェック数の目安は、10以上を「危機的（入院）」、6～9を「停滞（通院）」、5以下を「安定（経過観察）」とします。

要素	概要	チェック項目（分科会）	合計
熱源	**協働体制の動力源があるかどうか**	□ 推進役（熱源）がいない、もしくは異動してしまった。（2） □ 協働体制によって現場の業務負担軽減を期待している。（3） □ 自組織の正式業務としてコミットせず、負荷がかかることを恐れている。（7） **□ 教職員が負担過多で疲弊し、一部の教員しか関与していない。（12）**	**（24）**
方向性	**協働体制の舵取りがされているかどうか**	**□ 地域（自治体）・地域産業・学校の共通ビジョンが明文化されていない。（8）** □ 地域（自治体）・地域産業・学校の共通ビジョンが関係者に共有できていない。（7） □ 育てたい人物像／資質・能力が未定義または合意されていない。（5） □ 育てたい人物像／資質・能力と共通ビジョンが紐づいていない。（5）	**（25）**
活動量	**活動が行われているか、そのための環境があるかどうか**	□ 産学連携の取り組みや授業が活発化していない・形骸化している。（2） **□ 産学連携の取り組みを学校のみで設計し、地域企業には依頼をする関係性である。（5）** □産学連携の取り組みが授業・単元計画に組み込まれず資質・能力と紐づいていない。（3） □ 教員や生徒と関わる大人に挑戦する土壌がない。（3）	**（12）**
土壌・文化	**組織内外でコミュニケーションがとれているかどうか**	□ 学校内の体制が一つのチームになって動いていない。（9） □ 協働体制で合意形成・意思決定をする会議体がないor形骸化している。（3） □ 協働体制での会議が情報共有のみにとどまり、対話や熟議の場がない。（8） **□ PDCAサイクルを回すための指標が設定されていないor振り返る場がない。（11）**	**（31）**

6-6　共通課題4テーマの横断整理（エコサイクルのフェーズ別）

4テーマ（産学共通ビジョン／産学連携カリキュラムマネジメント／産学連携コーディネーターの効果的な活用／協働体制の自律的な運営）で整理した共通課題を、エコサイクルのフェーズの流れに沿って横断的に整理します。

■ **【対話の場づくり・協働体制の土台】（該当テーマ：1 産学共通ビジョンのつくり方・使い方）**

- 「なぜ産学連携に取り組むのか」「どのような人材を育てたいか」の共有
- 共通言語の整備と合意形成（参加者設計、対話の設計、言語化の粒度）
- 策定で終わらせず、運用・浸透まで見据えた設計

■ **【学校現場の実践】（該当テーマ：2 産学連携カリキュラムマネジメント）**

- 共通ビジョンで描いた「育てたい人材像」の教育課程・カリキュラムへの落とし込み
- 実践的な学びの設計・実施（探究・実習など）と、評価の整合
- 校内展開（学科横断、校内共有、教員育成）による改善の継続

■ **【連携と実践のハブ】（該当テーマ：3 産学連携コーディネーターの効果的な活用）**

- 関係者（学校・企業・自治体など）の接続と、ビジョンと行動の橋渡し
- 役割の明確化と使い分け（現場起点／方針実装／協働体制推進）
- 属人化の回避（体制化、ミドルリーダー・ワーキングチームとの連動）

■ **【対等な関係での自走運営】（該当テーマ：4 協働体制の自律的な運営）**

- 協働関係を「自律的に回る仕組み」として定着させる運用
- 状態点検（セルフチェック）と改善（PDCA）を回す仕掛け
- 熱源の維持、方向性の再確認、活動量・土壌の継続的な整備

■ **まとめ**

- エコサイクルの各フェーズで共通課題を押さえ、共通ビジョン→学校現場の実践→連携のハブ→自走運営の定着へとつなげることが、4テーマ横断の要点です。

あとがき

マイスター・ハイスクール関連事業は、令和3年度～令和7年度の取り組みとして実施されました。

今後については、文部科学省から「高等学校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）～2040年に向けた「N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想）」が示されました。

また、令和７年度補正予算では「高等学校教育改革促進基金」が創設されることとなっており、「アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援」などの取り組みが進められます。

本事業の取り組み成果が、「アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援」などの取り組みにおいても活用されることを期待します。

以上をもって、令和7年度マイスター・ハイスクールネットワーク構築にかかる支援事業の成果報告とします。